



Sun Java Enterprise System 2005Q1 配備実例集: 評価のシナリ オ

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 819-3442

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品および本書は著作権法によって保護されており、その使用、複製、頒布、および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびにほかの国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2、Java、Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装するか、または米国 Sun Microsystems 社の書面によるライセンス契約に従う米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights – Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



051130@13215



目次

はじめに	11
1 評価のシナリオの概要	19
Java Enterprise System について	19
評価の目的	20
評価のユースケース	20
2 アーキテクチャー	23
配備シナリオ	24
論理アーキテクチャー	24
サービス要件の品質	25
配備アーキテクチャー	26
3 配備仕様	29
コンピュータハードウェアとオペレーティングシステムの仕様	29
ネットワークと接続の仕様	30
ユーザー管理仕様	30
ディレクトリツリー構造	30
管理者アカウント	31
Delegated Administrator インスタンス	32
LDAP スキーマの拡張	33
4 インストールと設定の計画	35
インストールと設定の計画の作成	35
インストールと設定の計画の詳細	38

	Java ES インストーラの詳細	38
	Directory Server Preparation Tool の詳細	41
	Messaging Server 設定ウィザードの詳細	42
	Calendar Server 設定ウィザードの詳細	44
	Instant Messaging 設定ウィザードの詳細	45
	Communications Express 設定ウィザードの詳細	47
	Delegated Administrator 設定ウィザードの詳細	49
	Delegated Administrator コマンド行の詳細	51
5	コンポーネントのインストール	55
	インストール要件の確認	55
	事前作業	56
	▼ インターネットホストテーブルを確認するには	56
	▼ sendmail プロセスを無効にするには	56
	コンポーネントのインストール	57
	▼ インストールプロセスを開始するには	57
	▼ インストールするコンポーネントを選択するには	59
	▼ 設定の種類を指定するには	62
	▼ 共通サーバー設定を入力するには	63
	▼ Web Server の設定値を入力するには	64
	▼ Directory Server の設定値を入力するには	64
	▼ Administration Server の設定値を入力するには	66
	▼ Access Manager の設定値を入力するには	67
	▼ Portal Server の設定値を入力するには	68
	▼ インストールを完了するには	69
	インストールログファイルの確認	70
	▼ インストールログファイルを確認するには	70
6	コンポーネントの設定および確認	71
	Directory Server のデフォルトインスタンスの起動および確認	71
	▼ Administration Server を起動するには	72
	▼ Directory Server のデフォルトインスタンスを起動するには	72
	▼ LDAP ディレクトリの設定を確認するには	72
	Access Manager および Portal Server のデフォルトインスタンスの確認	75
	▼ Web Server のデフォルトインスタンスを再起動するには	76
	▼ Access Manager 管理コンソールにログインし、Access Manager を確認するには	76

- ▼ サンプルポータルデスクトップを表示し、Portal Server のデフォルトインスタンスを確認するには 77
- 通信サービス用のディレクトリの設定 78
 - ▼ 通信サービス用のディレクトリツリーを設定するには 79
- Messaging Server の設定 81
 - ▼ Messaging Server インスタンスを作成および設定するには 81
 - ▼ Messaging Server の設定によってディレクトリツリーが変更されたことを確認するには 87
 - ▼ Messaging Server インスタンスを確認するには 88
- Calendar Server インスタンスの設定 89
 - ▼ Calendar Server インスタンスを作成および設定するには 90
 - ▼ Calendar Server インスタンスを確認するには 93
- Instant Messaging インスタンスの設定 94
 - ▼ Instant Messaging インスタンスを作成および設定するには 95
- Communications Express インスタンスの設定 99
 - ▼ Communications Express インスタンスを設定するには 100

- 7 評価ソリューション用のユーザー管理 109
 - Delegated Administration ユーティリティーの設定 109
 - ▼ Delegated Administration ユーティリティーを設定するには 110
 - メールサービスおよびカレンダーサービス用の LDAP 組織の設定 116
 - ▼ メッセージングサービスおよびカレンダーサービス用に LDAP 組織のスキーマを拡張するには 117
 - エンドユーザーアカウントのプロビジョニング 117
 - ▼ テスト用のエンドユーザーアカウントを作成するには 118
 - ▼ テスト用のエンドユーザーアカウントを確認するには 118

- 8 シングルサインオン (SSO) の設定および使用 121
 - シングルサインオンについて 121
 - Access Manager のシングルサインオンについて 122
 - Portal Server プロキシ認証について 122
 - Access Manager のシングルサインオン用の設定 122
 - ▼ SSO 用に Messaging Server を設定するには 123
 - ▼ SSO 用に Calendar Server を設定するには 124
 - Communications Express における Access Manager のシングルサインオンの使用 125
 - ▼ SSO を使用して Communications Express にログインするには 125
 - Portal Server のプロキシ認証用の設定 127

▼ SSO アダプタサービス用にポータル「カレンダー」チャンネルを設定するには	127
▼ SSO アダプタサービス用にポータル「メール」チャンネルを設定するには	130
▼ プロキシ認証用に Portal Desktop を設定するには	133
▼ プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには	138
▼ プロキシ認証用に Calendar Server を設定するには	139
ポータルデスクトップでのプロキシ認証の使用	140
▼ プロキシ認証機能を使用するには	140
コンポーネントのアンインストール	141
▼ Java Enterprise System コンポーネントをアンインストールするには	142

索引	143
----	-----

表目次

表 4-1	Java ES インストーラの入力値	39
表 4-2	Directory Server Preparation Tool の入力値	42
表 4-3	Messaging Server 設定ウィザードの入力値	43
表 4-4	Calendar Server 設定ウィザードの入力値	44
表 4-5	Instant Messaging 設定ウィザードの入力値	46
表 4-6	Communications Express 設定ウィザードの入力値	47
表 4-7	Delegated Administrator 設定ウィザードの入力値	50
表 4-8	Delegated Administrator コマンドの概要	52

目次

図 2-1	評価配備の論理アーキテクチャー	24
図 2-2	評価ソリューションの配備アーキテクチャー	27
図 3-1	評価ソリューションのディレクトリツリー	31
図 5-1	「コンポーネントの選択」ページ	59
図 5-2	「製品の依存関係のチェック」ダイアログボックス	60
図 5-3	「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページ	61
図 5-4	「共有サーバー設定」ページ	63
図 5-5	Web Server: デフォルトの Web Server インスタンス (2 / 2)	64
図 5-6	Directory Server: サーバー設定 (2 / 5)	65
図 5-7	「Access Manager: 管理」ページ	67
図 5-8	「インストールの準備が完了しています」ページ	69
図 6-1	Server Console の「サーバーとアプリケーション」タブ	73
図 6-2	デフォルトの LDAP ディレクトリツリー	74
図 6-3	Access Manager 管理コンソール	77
図 6-4	サンプルポータルデスクトップ	78
図 6-5	設定ディレクトリサーバーのページ	82
図 6-6	「ポストマスターのメールアドレス」ページ	83
図 6-7	「すべての管理アカウントのパスワード」ページ	84
図 6-8	「デフォルトの電子メールアドレス」ページ	85
図 6-9	「デフォルト電子メールアドレスの組織 DN」ページ	85
図 6-10	Messaging Server の設定によって変更されたスキーマ 2 のディレクトリツリー	87
図 6-11	「汎用エディタ」	88
図 6-12	Messenger Express のメインウィンドウ	89
図 6-13	「管理、ユーザー設定、および認証」ページ	90
図 6-14	「メールと電子メールアラーム」ページ	91
図 6-15	「ランタイム設定」ページ	92

☒ 6-16	Calendar Express のメインウィンドウ	94
☒ 6-17	「IM サーバー/Identity Server オプション」	ページ 96
☒ 6-18	「Instant Messaging Server の設定」	ページ 97
☒ 6-19	「Instant Messaging サーバーの LDAP 設定」	ページ 98
☒ 6-20	「Web コンテナのユーザーとグループ」	ページ 101
☒ 6-21	「ユーザー/グループのディレクトリサーバーの詳細」	ページ 102
☒ 6-22	「デフォルトドメイン名」	ページ 103
☒ 6-23	「Identity Server の設定」	ページ 104
☒ 6-24	「Messenger Express ポート」	ページ 105
☒ 6-25	「Calendar Server のホストおよびポートの設定」	ページ 105
☒ 6-26	「Calendar Server の管理者の詳細」	ページ 106
☒ 7-1	「Access Manager のホストとポート」	ページ 111
☒ 7-2	「デフォルトドメイン」	ページ 111
☒ 7-3	「Directory (LDAP) Server パネル」	ページ 113
☒ 7-4	「Access Manager 最上位管理者」	ページ 113
☒ 7-5	「Access Manager 内部 LDAP 認証パスワード」	ページ 114
☒ 7-6	「デフォルト組織の最上位管理者」	ページ 115
☒ 7-7	Instant Messaging のメインウィンドウ	119
☒ 8-1	「新規メッセージ」ウィンドウ	126
☒ 8-2	SSO アダプタプロパティ	128
☒ 8-3	メールチャンネルとカレンダーチャンネルが表示されているポータルデスク トップ	141

はじめに

『Java Enterprise System 配備実例集: 評価のシナリオ』では、Sun Java™ Enterprise System (Java ES) を1つのシステムにインストールする方法、また一連の核となる共有ネットワークサービスを確立し、確立したサービスにアクセスできるユーザーアカウントを設定する方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、Java Enterprise System をインストールし評価する評価担当者、システム管理者、およびインストール技術者を対象としています。

このマニュアルは、次の事項に習熟している方を対象に記述されています。

- UNIX® オペレーティングシステム
- インターネットプロトコル (IP) コンピュータネットワーク
- エンタープライズレベルのソフトウェア製品のインストール

このマニュアルをお使いになる前に

このマニュアルで説明されているタスクを実行する前に、Java Enterprise System リリースノートをお読みください。Java Enterprise System マニュアルの説明およびリンクについては、14 ページの「関連マニュアル」を参照してください。

このマニュアルの構成

このマニュアルには、評価ソリューションの設計に関する背景情報と、評価ソリューションをインストールおよび設定するための詳細な手順が記載されています。このマニュアルは、次の章で構成されています。

第1章では、Java ES 評価の目的と、評価ソリューションの基になっているユースケースについて説明します。

第2章は、評価のユースケースを実装し、Java ES 製品の機能を例証する Java ES ソリューションに関する高度な技術上の説明です。

第3章は、評価ソリューションに関する詳細な技術上の説明です。

第4章では、評価ソリューションのインストールおよび設定に使用する値の一覧を示します。

第5章では、評価ソリューションをインストールするための詳細な手順を示します。

第6章では、評価ソリューションの設定を続行し、設定を検証するための詳細な手順を示します。

第7章では、評価ソリューションで使用する LDAP ディレクトリを設定を完了し、テスト用のエンドユーザーアカウントを作成するための詳細な手順を示します。

第8章では、評価ソリューションをシングルサインオン用に設定し、ソリューション全体が正しく機能することを検証するための詳細な手順を示します。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 machine_name% you have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	machine_name% su Password:
aabbcc123	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は2つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

記号の表記規則

次の表は、このマニュアルで使用される記号を示しています。

表 P-2 記号の表記規則

記号	説明	例	意味
[]	省略できるコマンドオプションを示します。	ls [-l]	-l オプションは必要ありません。
{ }	必須コマンドオプションの選択肢を示します。	-d {y n}	-d オプションでは、y 引数または n 引数を使用する必要があります。
+	同時に押すキーを連結します。	Ctrl+A	Ctrl キーを押しながら A キーを押します。
-	連続して押すキーを連結します。	Ctrl-A-N	Ctrl キーを押して放してから、後続のキーを押します。
>	グラフィカルユーザーインターフェースで選択するメニュー項目を示します。	「ファイル」>「新規」>「テンプレート」	「ファイル」メニューから「新規」を選択します。「新規」サブメニューから「テンプレート」を選択します。

関連マニュアル

docs.sun.comSM の Web サイトで、Sun の技術マニュアルをオンラインで利用できます。docs.sun.com のアーカイブを参照するか、特定のマニュアルタイトルや件名を検索できます。マニュアルは、PDF (Portable Document Format) 形式および HTML (Hypertext Markup Language) 形式のオンラインファイルとして用意されています。どちらの形式のファイルも、障害を持つユーザーにも参照可能です。URL は <http://docs.sun.com> です。

Java Enterprise System のマニュアルには、システム全体に関する情報とそのコンポーネントに関する情報が記載されています。Java ES のマニュアルセットの URL は、<http://docs.sun.com/prod/entsys.05q4> です。Java Enterprise System ドキュメントロードマップでは、個々のシステムコンポーネントのマニュアルについて説明しています。各コンポーネントのマニュアルは、<http://docs.sun.com> から入手することもできます。

次の表に、Java ES のマニュアルセットにあるシステムのマニュアルの一覧を示します。左の列は各マニュアルのタイトルとパーツ番号 URL で、右の列はマニュアルの全般的な内容です。

表 P-3 Java Enterprise System のマニュアル

マニュアル名	内容
『Java Enterprise System リリースノート』 http://docs.sun.com/doc/819-3421?l=ja	既知の問題を含め、Java Enterprise System に関する最新情報を記載しています。これ以外に、コンポーネントごとにリリースノートがあります。
『Java Enterprise System ドキュメントロードマップ』 http://docs.sun.com/doc/819-3414?l=ja	Java Enterprise System のシステムと個々のコンポーネントに関連するすべてのマニュアルについて説明しています。
『Java Enterprise System 技術の概要』 http://docs.sun.com/doc/819-3583?l=ja	Java Enterprise System の技術上および概念上の基礎を紹介しています。コンポーネント、アーキテクチャー、プロセス、および機能について説明しています。
『Java Enterprise System 配備計画ガイド』 http://docs.sun.com/doc/819-3449?l=ja	Java Enterprise System に基づくエンタープライズ配備ソリューションの計画と設計を紹介しています。配備の計画と設計に関する基本的な概念と原則を示し、ソリューションのライフサイクルについて説明し、Java Enterprise System に基づいてソリューションを計画するときに使用する高度な実例と方針を示します。
『Java Enterprise System ユーザーの管理』 http://docs.sun.com/doc/819-2332	Java Enterprise System ソリューションのユーザーに関する情報を計画、配備、および管理するのに役立ちます。Java Enterprise System 配備計画ガイドの補足として、ユーザー管理の問題の、ソリューションのライフサイクルのそれぞれの面について説明しています。
『Java Enterprise System 配備実例集: 評価のシナリオ』 http://docs.sun.com/doc/819-3442?l=ja	Java Enterprise System を 1 つのシステムにインストールする方法、核となる共有ネットワークサービスのセットを確立する方法、および確立したサービスにアクセスできるユーザーアカウントを設定する方法について説明します。

表 P-3 Java Enterprise System のマニュアル (続き)

マニュアル名	内容
『Java Enterprise System インストールガイド』 http://docs.sun.com/doc/819-3313?l=ja	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティングシステムで Java Enterprise System をインストールするプロセス全体について説明します。インストールするコンポーネントを選択する方法、インストール後にそれらのコンポーネントを設定する方法、および設定したコンポーネントが正しく機能することを確認する方法を示します。
『Java Enterprise System アップグレードと移行』 http://docs.sun.com/doc/819-3456?l=ja	Solaris オペレーティングシステムまたは Linux オペレーティング環境での Java Enterprise System のアップグレードに関する情報と手順について説明します。
『Java Enterprise System 用語集』 http://docs.sun.com/doc/816-4629?l=ja	Java Enterprise System のマニュアルで使用する用語を定義しています。

Sun のオンラインリソースへのアクセス

Java Enterprise System の購入について

は、<http://www.sun.com/software/javaenterprisesystem/index.html> にアクセスしてください。

プロ向けのサービス、パッチとサポート、追加の開発者情報、およびその他の製品ダウンロードについては、次のオンラインリソースにアクセスしてください。

- 上級者向けのサービス
(<http://www.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>)
- Sun のエンタープライズサービス、Solaris パッチ、およびサポート
(<http://sunsolve.sun.com/>)
- 開発者向け情報 (<http://developers.sun.com/prodtech/index.html>)
- ダウンロードセンター (<http://www.sun.com/software/download/>)

Sun の技術サポートの連絡先

この製品に関する製品マニュアルで扱われていない技術的な質問については、<http://www.sun.com/service/contacting> にアクセスしてください。

サードパーティーの Web サイトに関する参照情報

このマニュアルには、補足的な関連情報を提供するために、サードパーティーの URL も参照されています。

注 - Sun は、このマニュアルに記載されているサードパーティーの Web サイトが利用可能かどうかについて責任を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆる内容、広告、製品、およびその他の資料を保証するものではなく、責任または義務を負いません。Sun は、このようなサイトまたはリソースで得られるあらゆるコンテンツ、製品、またはサービスによって生じる、または使用に関連して生じる、または信頼することによって生じる、または生じたと主張される、いかなる損害または損失についても責任または義務を負いません。

ご意見、ご要望の送付先

Sun ではマニュアルの品質向上のため、お客様のご意見、ご要望をお受けしております。

ご意見をお送りいただく場合は、<http://docs.sun.com/app/docs?l=ja> にアクセスし、「コメントの送信」をクリックしてください。オンラインフォームで、マニュアルの名称および Part No. をお知らせください。Part No. は、マニュアルのタイトルページまたは最上部に記載されている 7 桁または 9 桁の番号です。

第 1 章

評価のシナリオの概要

この章では、評価の目的について説明し、評価ソリューションの基になっているユースケースの一覧を示します。

この章では、次の節で評価について紹介します。

- 19 ページの「Java Enterprise System について」
- 20 ページの「評価の目的」
- 20 ページの「評価のユースケース」

Java Enterprise System について

Sun Java™ Enterprise System (Java ES) は、企業における広範囲なコンピュータに対する要求をサポートするインフラストラクチャーソフトウェアです。たとえば、企業の従業員が電子メール、カレンダー、および社内ビジネスアプリケーションにセキュアにアクセスできるように、セキュリティー保護されたイントラネットポータルを作成するなどです。

Java ES は、カスタムのプログラミングを必要としないエンドユーザーサービスを多く提供するとともに、カスタムの分散型のエンタープライズアプリケーションもサポートしています。

Java ES は、Sun Java System Directory Server や Access Manager などのソフトウェアコンポーネントで構成されています。さまざまな企業のコンピュータに対する要求に対応するために、Java ES のコンポーネントは何通りもの方法で組み合わせて設定できます。

各企業は自社の要求を評価し、独自の Java ES ソリューションを設計します。ある企業にとっての最適なソリューションは、必要な Java ES サービス、利用ユーザー数、使用できるハードウェアの種類や、その他の考慮点によって異なります。

Java ES の技術概念および用語集の詳細については、『Java Enterprise System 技術の概要』(<http://docs.sun.com/db/prod/entsys?l=ja>)を参照してください。Java ES ソリューションの設計に関する詳細については、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/817-7592?l=ja>)を参照してください。

評価の目的

このマニュアルでは、Java ES コンポーネントの基本セットをインストールする方法と、カスタムのアプリケーションプログラミングを行うことなくそれらを設定して、ネットワーク接続されたメッセージングサービス、カレンダーサービス、およびポータルサービスを提供する方法について説明します。このマニュアルでは、Web ベースのインタフェースからこれらのサービスにアクセスできるように LDAP ユーザーアカウントを設定する方法についても説明します。

評価用にインストールするコンポーネントのセットは、シングルサインオン機能およびプロキシ認証機能をサポートするため、これらの Java ES 機能の評価が可能になります。このマニュアルで、シングルサインオンとプロキシ認証を設定する方法について説明します。

このマニュアルの手順を実行することで、核となる共有ネットワークサービスが企業の従業員および顧客に Java ES コンポーネントによってどのように提供されるかがわかります。それらの核となるサービスに、組み込み型の Web ベースのインタフェースを使用してアクセスする方法を学習します。また、Java ES ソリューションで自社の従業員および顧客にサービスをどのように提供できるかイメージできるように、Java ES の機能についても十分に学習します。

評価のユースケース

このマニュアルでは、Java ES の多数の機能を例証する製品評価について説明します。評価機能は、次の一連のユースケースで特定されます。

- インストールと設定を使用する場合: 1 つのシステムに Java Enterprise System コンポーネントをインストールする。
- インストールと設定を使用する場合: Java Enterprise System の設定ツールを使用して、コンポーネントのインスタンスを設定する。
- インストールと設定を使用する場合: 管理者アカウントを使用して、メール、カレンダー、ポータル、およびインスタントメッセージの各サービスを検証する。
- 管理者が使用する場合: 評価ソリューションのディレクトリツリーを設定し、1 つのエンドユーザーアカウントを確立する。

- 管理者が使用する場合: メールサービスおよびカレンダーサービスの Access Manager シングルサインオン (SSO) を設定する。
- エンドユーザーが使用する場合: Communications Express インタフェースおよびシングルサインオン機能を使用して、1つのインタフェースでメールサービスおよびカレンダーサービスにアクセスする。
- 管理者が使用する場合: Portal Server プロキシ認証を設定する。
- エンドユーザーが使用する場合: ポータルデスクトップにログインしてシングルサインオン機能を使用して、メールサービスおよびカレンダーサービスにアクセスする。

このマニュアルでは、これらのユースケースを実装してこれらの機能を実証する Java Enterprise System ソリューションを設計、インストール、設定、および使用方法を示します。

評価ソリューションのユースケースは比較的単純ですが、このマニュアルでは、標準的な配備計画の方法論を使用して、評価ソリューションを設計する方法およびインストール手順を開発する方法について説明します。第2章、第3章、および第4章では、評価ソリューションのコンポーネントを選択する方法、ソリューションのアーキテクチャーを開発する方法、およびソリューションのインストールおよび設定に使用する値を開発する方法について説明します。これらの説明は、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』で概要が説明されている配備計画の方法論に従っています。

第 2 章

アーキテクチャー

Java ES アーキテクチャーは、Java ES ソリューションに関する高度な技術的説明です。アーキテクチャーを開発して、ユースケースで説明されているサービスを提供する Java ES コンポーネントとほかの技術の組み合わせを特定します。

アーキテクチャーの開発は、2つの段階のプロセスで構成されます。次のプロセスを実行します。

1. 配備シナリオを準備します。配備シナリオでは、ユースケースで説明されているサービスを提供する Java ES コンポーネントを特定し、さらにこれとは別に、ソリューションに対するサービス要件の品質を指定します。
2. 配備アーキテクチャーを準備します。配備アーキテクチャーでは、配備シナリオで開発した情報を統合します。インストールおよび設定する必要がある各コンポーネントのインスタンス数と冗長性の方針やハードウェアの種類、および必要なサービスと指定したサービス品質を提供するためにインスタンスをネットワークに分散する方法を決定します。

この章では、評価ソリューションのアーキテクチャーを開発する両方の段階について説明します。評価アーキテクチャーは比較的単純ですが、これらの説明は、評価ソリューションをインストールおよび設定するプロセスを理解するのに役立ちます。配備計画の方法論に関する詳細については、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』を参照してください。

この章では、次の節で評価ソリューションのアーキテクチャーを開発するプロセスについて説明します。

- [24 ページの「配備シナリオ」](#)
- [26 ページの「配備アーキテクチャー」](#)

配備シナリオ

ソリューションのアーキテクチャー開発の第1段階は、配備シナリオを準備することです。配備シナリオは、次の要素から構成されています。

- 論理アーキテクチャー。ユースケースの実装に必要なコンポーネントを特定します。
- サービス要件の品質のセット。ソリューションに必要なパフォーマンスを指定します。

この節では、20 ページの「評価のユースケース」で説明されているユースケースに基づいて配備シナリオを開発する方法について説明します。

論理アーキテクチャー

論理アーキテクチャーは、一連のユースケースで説明されているサービスを提供する Java Enterprise System コンポーネントを特定します。通常、論理アーキテクチャーは視覚的に表現されます。評価のユースケースに必要なコンポーネントを図 2-1 に示します。

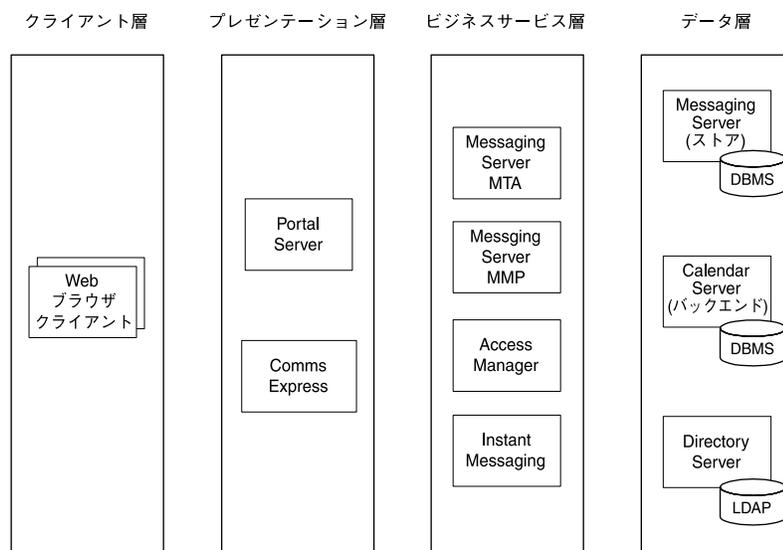


図 2-1 評価配備の論理アーキテクチャー

図 2-1 のコンポーネントは、次の理由で論理アーキテクチャーに含まれています。

- ユースケースで説明されているポータルサービスは、Portal Server によって提供されます。エンドユーザーは、Web ベースのポータルデスクトップを使用してポータルサービスにアクセスします。左端のクライアント層にある Web ブラウザクライアントは、Web ブラウザでポータルデスクトップを表示するエンドユーザーを表します。評価ソリューションの場合は、サンプルのポータルデスクトップをインストールします。
- Portal Server およびその他のいくつかの Web ベースのコンポーネントが Web コンテナで動作している必要があります。評価ソリューションの場合は、Web Server のインストールを選択し、必要な Web コンテナを提供します。Web Server は直接的には何のサービスも提供しないので図 2-1 に示されていませんが、Portal Server、Access Manager、Communications Express、および Instant Messaging の Web コンテナサポートを提供するためにインストールする必要があります。
- エンドユーザーは、Web ベースの Communications Express インタフェースを使用して、ユースケースで説明されているメールサービスおよびカレンダーサービスにアクセスします。左端のクライアント層にある Web ブラウザクライアントは、Web ブラウザで Communications Express にアクセスするエンドユーザーを表します。
- ユースケースで説明されているメールサービスは、Messaging Server によって提供されます。Messaging Server には独自の Web コンテナがあります。
- ユースケースで説明されているカレンダーサービスは、Calendar Server によって提供されます。Calendar Server には独自の Web コンテナがあります。
- ユースケースで説明されているインスタントメッセージサービスは、Instant Messaging によって提供されます。
- シングルサインオンやポータルプロキシ認証を含め、ユースケースで説明されている認証と承認のサービスは、Access Manager によって提供されます。
- LDAP ディレクトリサービスは、ユースケースで説明されているサービスのサポートに必要です。LDAP サービスは、Directory Server によって提供されます。LDAP ディレクトリには、ほかのコンポーネントに関する設定データ、管理ユーザーのエントリ、およびエンドユーザーのエントリが保存されます。

図 2-1 では、コンポーネントがいくつかの層に配列されています。これらの層は、コンポーネントがソリューション内で実行する異なるロールを表しています。評価ソリューションでは、すべての層が 1 つのコンピュータシステムに結合されます。

運用ソリューションでは、コンポーネントが実行するロールは、コンポーネントやサブコンポーネントをネットワークに分散する方法、およびスタンドアロンのメールクライアントなどのほかのソフトウェアと相互運用するようにそれらのコンポーネントを設定する方法を決定するのに役立ちます。Java ES の多層アーキテクチャーに関する詳細については、『Java Enterprise System 技術の概要』(<http://docs.sun.com/doc/817-7583?l=ja>) を参照してください。

サービス要件の品質

論理アーキテクチャーにより、ユースケースで説明されているサービスを提供する Java ES コンポーネントを特定できますが、コンポーネントをネットワークにインストールする方法は論理アーキテクチャーからはわかりません。一般的な運用ソリューション

ションでは、応答時間、サービスの可用性、サービスの信頼性などのサービス要件の品質は、コンポーネントの複数のインスタンスをインストールおよび設定し、それらのインスタンスをいくつかのコンピュータシステムに分散することによって確保されます。たとえば、Messaging Server の 2 つのインスタンスを 2 つの異なるコンピュータシステムにインストールし、それらのインスタンスをロードバランス用のハードウェアと一緒に設定すると、メッセージサービスのフェイルオーバー機能と高可用性が実現できます。

ソリューションのサービス要件の品質を決定するには、自社のビジネスニーズを分析し、一連の要件を作成します。サービス要件の品質は、サポートする必要のあるユーザー数、ユーザーに対する応答時間、許容される停止時間など、ビジネスニーズの重要な特徴に基づいています。

このマニュアルで説明されている評価ソリューションでは、多数のユーザーをサポートすることは必要とされていません。また、継続的な可用性や運用ソリューションの他の機能も必要とされていません。したがって、評価ソリューションのシステム要件は最小限です。それらの要件は次のとおりです。

- 負荷およびパフォーマンスの要件: なし
- 可用性の要件: なし
- セキュリティーの要件: LDAP 認証、シングルサインオン
- サービス機能の要件: なし
- スケーラビリティの要件: なし

配備アーキテクチャー

ソリューションのアーキテクチャー開発の第 2 段階は、配備アーキテクチャーの準備です。配備アーキテクチャーは、論理アーキテクチャーとサービス要件の品質を統合します。配備アーキテクチャーを開発するときは、次のような質問に答えます。

- どの冗長性の方針を使用して可用性および信頼性の要件を満たしますか。(利用可能な一部の冗長性の方針では、1 つのコンポーネントの複数のインスタンスをインストールおよび設定し、それらのインスタンスのロードバランスを図って可用性と信頼性を実現したり、1 つのコンポーネントの複数のインスタンスをインストールおよび設定し、Sun のクラスタ技術を使用して可用性と信頼性を実現したり、マルチマスターとレプリケーションの機能で同期が取られる Directory Server の複数のインスタンスを使用して可用性と信頼性を実現したりします。)
- ソリューションで使用する冗長性の方針を実装するために、コンポーネントごとにいくつのインスタンスをインストールおよび設定する必要がありますか。
- どのようにコンポーネントのインスタンスをコンピュータのハードウェアシステムに結合しますか。たとえば、中規模のソリューションでは、Messaging Server と Calendar Server の両方のインスタンスを 2 つのコンピュータシステムにインストールおよび設定できます。Sun Cluster 技術を利用して 2 つのコンピュータシステムをクラスタ化すると、このアーキテクチャーでメッセージサービスとカレンダー

サービスの可用性と信頼性を実現できます。

- サービス要件の品質で指定したパフォーマンスを実現するために、各コンピュータシステムにいくつの CPU が必要ですか。

これらの質問に対する答えによって、ソリューションの配備アーキテクチャーが明らかになります。通常、配備アーキテクチャーは、ソリューション内のコンピュータシステムを表す一連のボックスを使って、視覚的に表現されます。各ボックスには、そのコンピュータシステムにインストールされているコンポーネントのラベルを付けます。評価ソリューションの配備アーキテクチャーを図 2-2 に示します。

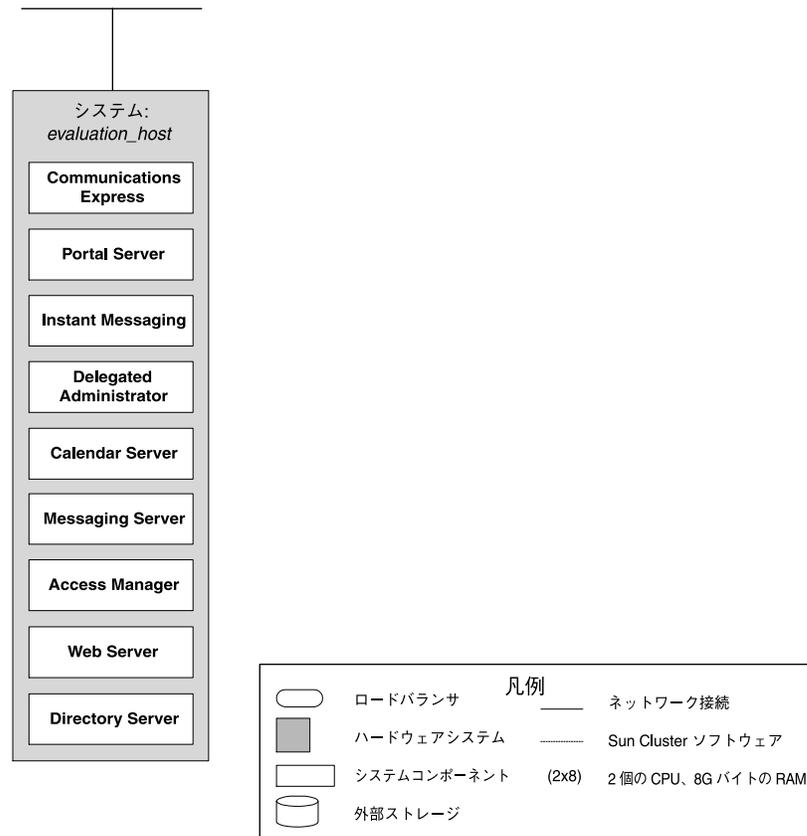


図 2-2 評価ソリューションの配備アーキテクチャー

図 2-2 は、評価のユースケースに関するサービス要件の最小限の品質は、評価ソリューションで使用するすべてのコンポーネントを 1 つのシステムにインストールすることによって確保されることを示しています。システムは、*evaluation_host* というラベルが付いたボックスで表されています。このマニュアルの以降の部分では、1 つのシステム上で評価ソリューションをインストール、設定、および使用方法について説明します。

運用ソリューションの配備アーキテクチャーでは、複数のコンピュータシステムで、システムごとにさまざまな組み合わせのコンポーネントがインストールされます。運用ソリューションに適した大規模な配備アーキテクチャーの例については、Java ES ソリューション、『Java Enterprise System 配備計画ガイド』(<http://docs.sun.com/doc/817-7592?l=ja>)を参照してください。

第 3 章

配備仕様

一連の配備仕様は、Java ES ソリューションの詳細な技術的説明で構成されます。配備仕様は 1 つのアーキテクチャーに基づいています。一連の配備仕様を作成することにより、アーキテクチャーを実装するのに必要な技術的詳細を特定します。

この章では、次の節で評価ソリューションの配備仕様について説明します。

- 29 ページの「コンピュータハードウェアとオペレーティングシステムの仕様」
- 30 ページの「ネットワークと接続の仕様」
- 30 ページの「ユーザー管理仕様」

コンピュータハードウェアとオペレーティングシステムの仕様

コンピュータハードウェアとオペレーティングシステムの仕様には、配備に使用される各システムに必要なオペレーティングシステムとコンピュータハードウェアの構成を記述します。ハードウェアの要件は、システムにインストールするコンポーネントとシステムに要求されるパフォーマンスのレベルによって決まります。

評価ソリューションに要求されるパフォーマンスのレベルは低いため、『Java Enterprise System リリースノート』に記載された最小要件を満たすコンピュータシステムであれば十分です。

ネットワークと接続の仕様

ネットワークと接続の仕様には、アーキテクチャーを実装するのに必要なすべてのネットワーク接続を記述します。

評価ソリューションは1つのコンピュータシステムにインストールされるように設計されているため、ネットワークと接続の仕様は必要ありません。

ユーザー管理仕様

Java ES ソリューションをインストールおよび設定すると、ソリューション用の LDAP ディレクトリツリーの基本構造が確立されます。また、インストールと設定のプロセスによって、ディレクトリにデータが追加されます。ユーザー管理仕様には、Java ES ソリューションのディレクトリを記述します。

ディレクトリツリー構造

ソリューション用の LDAP ディレクトリ構造を作成するときに考慮する主なポイントは、次のとおりです。

- このディレクトリは、Directory Server の複数のインスタンスに分散できます。ソリューションの適切な割り振り方は、サービス要件の品質とセキュリティ要件によって決まります。たとえば、設定データとユーザーおよびグループのデータに対して別個の Directory Server インスタンスを作成できます。また、ユーザーおよびグループのデータに対しても、複数のディレクトリブランチを作成できます。たとえば、従業員データのブランチと Web ベースの顧客のブランチを作成し、各ブランチを別個の Directory Server インスタンス内に設定します。
- ユーザーおよびグループのデータを保持する Directory Server インスタンスごとに、ベース DN サフィックスを指定する必要があります。この値は、Java ES インストーラの実行時に指定します。
- Java ES の通信サービス (Messaging Server、Calendar Server、および Instant Messaging) 用のユーザーおよびグループのデータを保持する Directory Server インスタンスごとに、これらのサービスへのシングルサインオンによるアクセスをサポートするために設定されたディレクトリブランチツリーを作成する必要があります。このブランチは、Messaging Server 設定ウィザードの実行時に作成します。このブランチの設定は、Directory Server Preparation Tool と Delegated Administrator ツールを使用して行います。

評価ソリューションのサービス要件とセキュリティー要件の品質は最低限なので、設定データとユーザーおよびグループのデータの両方を 1 つの Directory Server インスタンスに割り振っても要件は満たされます。評価ソリューション用の Directory Server インスタンスは、ほかのコンポーネントとともに 1 つのコンピュータシステム上で実行されます。

評価ソリューションでは Java ES の通信サービスが使用されるため、通信サービスとシングルサインオンをサポートする LDAP ツリーブランチが必要です。

評価ソリューション用の LDAP ディレクトリは、Examplecorp という架空の会社用に設定されます。評価ソリューションの LDAP ベース DN は `o=examplecorp` です。このベース DN は、Java ES インストーラの実行時に指定します。通信サービスをサポートするために Messaging Server 設定ウィザードで作成するブランチの名前は、`o=examplecorp.com,o=examplecorp` です。このブランチには People コンテナがあります (LDAP DN は `ou=people,o=examplecorp.com,o=examplecorp`)。この People コンテナにエンドユーザーアカウントを追加します。

図 3-1 に、評価ソリューションのディレクトリツリーの略図を示します。

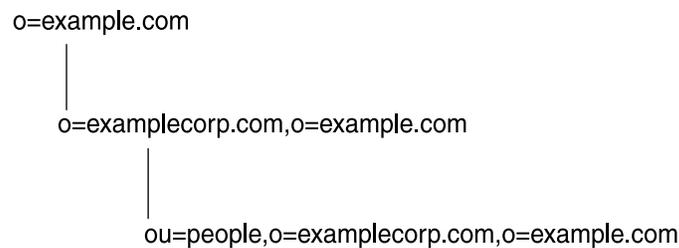


図 3-1 評価ソリューションのディレクトリツリー

管理者アカウント

Java ES ソリューションのインストールと設定では、LDAP ディレクトリの基本構造を設定するのに加えて、いくつかの管理者アカウントを設定します。インストールおよび設定するコンポーネントごとに、インストーラまたは設定ウィザードによって 1 つまたは複数の管理者アカウントが作成されます。

評価ソリューションでは、簡素化のため、最小限の数の管理者アカウントを作成し、ほとんどの管理者パスワードに “password” という値を使用します。評価ソリューションのために作成される管理者アカウントは、次のとおりです。

- Directory Server — 管理者アカウント名は `admin`、管理者パスワードは `password` です。アカウントの LDAP DN は `uid=admin,ou=People,o=examplecorp` です。ディレクトリマネージャーアカウントも作成できます。ディレクトリマネージャーのアカウント名は `dn=Directory Manager`、パスワードは `password` です。ディレクトリマネージャーアカウントは、ほかのコンポーネントがディレクトリにアクセスするときに使用されます。

- Administration Server — 評価ソリューションでは、Directory Server と Administration Server で同じ管理者アカウントが使用されます。アカウント名は admin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=admin,ou=People,o=examplecorp です。
- Access Manager— 管理者ユーザー ID は amadmin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=amadmin,ou=People,o=examplecorp です。このアカウントは、Access Manager コンソールにアクセスして何らかの設定を行うために使用されます。
- Web Server — 評価ソリューションでは、Administration Server、Directory Server、および Web Server で同じアカウントが使用されます。管理者アカウント名は admin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=admin,ou=People,o=examplecorp です。
- Messaging Server — 管理者ユーザー ID は admin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=admin,ou=People,o=examplecorp.com,o=examplecorp です。このアカウントは、Communications Express がメッセージングサービスにアクセスするときに使用されます。
- Calendar Server — 管理者ユーザー名は calmaster、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=calmaster,ou=People,o=examplecorp.com,o=examplecorp です。このアカウントは、Communications Express がカレンダーサービスにアクセスするときに使用されます。
- Instant Messaging — 管理者アカウント名は admin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=admin,ou=People,o=examplecorp.com,o=examplecorp です。
- Communications Express — 管理者アカウント名は admin、管理者パスワードは password です。アカウントの LDAP DN は uid=admin,ou=People,o=examplecorp.com,o=examplecorp です。

運用ソリューションでは、セキュリティ要件を考慮して、別個のセキュリティ保護された管理者アカウントを使用する計画を作成します。

Delegated Administrator インスタンス

Delegated Administrator は、ユーザーアカウントの作成および管理に使用する Java ES のツールです。Delegated Administrator のインスタンスを設定するには、Delegated Administration 設定ウィザードを実行します。評価ソリューションのディレクトリツリーの o=examplecorp.com,o=examplecorp ブランチで動作するようにこのインスタンスを設定します。

Delegated Administrator は、汎用性の高いユーザー管理ツールです。特に、複数の管理者アカウントを設定し、ユーザーおよびグループのディレクトリの特定のセグメントに対する管理者権限を各アカウントに付与することができます。評価ソリューションでは、Delegated Administrator の基本的なコマンド行機能のみを使用します。

LDAP スキーマの拡張

Sun Java™ Enterprise System で使用するために作成する LDAP ディレクトリツリー ブランチ (o=examplecorp.com,o=examplecorp ブランチ) は、そのブランチ内に作成するユーザーアカウントに対してメールサービスとカレンダーサービスを使用する権限が与えられるように設定する必要があります。この設定は、Delegated Administrator のコマンド行インタフェースを使用して行います。

第 4 章

インストールと設定の計画

インストールと設定の計画には、Java ES ソリューションのインストールと設定に必要な情報が含まれます。インストールと設定の計画は、インストーラと設定ウィザードを実行して Java ES ソリューションを実装するために作成します。

インストールと設定の計画は、配備仕様の技術情報に基づいています。インストールと設定の計画を作成するときは、インストーラや設定ウィザードでユーザーに情報の入力が必要となる順序に合わせて配備仕様の情報を構成します。たとえば、ユーザー管理仕様では、ソリューションの完全なディレクトリツリーを示します。しかし、ソリューションをインストールおよび設定するときは、ディレクトリツリーを確立するための情報の一部をインストーラに入力し、一部を Messaging Server の設定ウィザードに入力します。したがって、インストールと設定の計画を作成するときは、ユーザー管理の情報をインストーラの入力値と Messaging Server 設定ウィザードの入力値に分類し、ツールごとに適切な入力値を割り当てたリストを作成します。

この章では、評価ソリューションのインストールと設定の計画を作成する方法について説明し、次に計画の詳細について説明します。この章では、次の節でインストールと設定の計画について説明します。

- 35 ページの「インストールと設定の計画の作成」
- 38 ページの「インストールと設定の計画の詳細」

インストールと設定の計画の作成

Java ES ソリューションのインストールと設定は、Java ES インストーラとともにいくつかのコンポーネントについて別個の設定ウィザードを使用する、拡張されたプロセスです。ソリューションをスムーズにインストールおよび設定するには、計画が必要不可欠です。

ここでは、評価ソリューションのインストールと設定の計画を作成する方法について説明します。インストールと設定の計画を作成するために解決すべき主な問題は、次の 2 つです。

- コンポーネントには設定の依存関係があるため、コンポーネントを正しい順序でインストールおよび設定する必要があります。たとえば、ほとんどのコンポーネントは設定データを Directory Server の LDAP ディレクトリに保存し、管理者アカウントのディレクトリエントリを作成します。このため、あらかじめ Directory Server をインストールして実行してから、ほかのコンポーネントを設定する必要があります。インストールと設定の計画では、ソリューション内のコンポーネントの正しい順序を特定する必要があります。
- ソリューション内のコンポーネントは1つのシステムとして相互運用する必要があるため、設定値を指定することによってコンポーネントどうしを結びつける必要があります。これらの設定値は、個々のソリューションに固有のものです。たとえば、Directory Server の設定時には、ディレクトリにアクセスするための URL と、ディレクトリにログインするためのディレクトリマネージャーのアカウントとパスワードを確立します。その後、Access Manager を設定するときに、Directory Server の URL、ディレクトリマネージャーのアカウント、およびディレクトリマネージャーのパスワードを指定します。このように設定することで、Access Manager が Directory Server と相互運用できるようになります。インストールと設定の計画を作成することにより、設定の入力値の一貫性が保証され、相互運用するコンポーネントからなるシステムを設定できるようになります。

Java Enterprise System ソリューションのインストールと設定の基本的な手順は次のとおりです。

1. インストーラを実行して、ソリューション内で使用されるコンピュータシステムにすべてのコンポーネントファイルをコピーします。ユーザーが入力した値に基づいて、インストーラが一部のコンポーネントのインスタンスを設定します。ユーザー管理仕様に記述したディレクトリツリーを実装するための値を指定し、相互運用に必要なコンポーネントインスタンスを設定します。
2. インストーラによって設定されたコンポーネントインスタンスを起動し、正常に機能することを確認します。
3. 設定ウィザードを実行して、インストーラによって設定されていないコンポーネントのインスタンスを設定します。設定ウィザードを実行する順序は、コンポーネントの設定の依存関係によって決まります。

完成したインストールと設定の計画には、インストーラに入力する値、設定ウィザードの正しい実行順序、および設定ウィザードの各ページに入力する値が記載されます。

評価ソリューションのアーキテクチャー内で識別される一連のコンポーネントにこの方法を適用することにより、次に示す評価ソリューションの具体的なインストールと設定の手順が得られます。

1. インストーラは1つのコンピュータシステムで1回だけ実行します。インストーラは、すべてのコンポーネントをコンピュータシステムにコピーし、オペレーティングシステムにコンポーネントを登録します。また、インストーラは次のコンポーネントのインスタンスを設定します。
 - Directory Server.
 - Web Server
 - Access Manager

■ Portal Server

インストーラを実行するときは、LDAP ディレクトリのベース DN を確立します。また、コンポーネントを相互運用するための設定値 (Directory Server の URL など) を指定します。また、インストーラを使ってポータルデスクトップのサンプルをインストールします。

2. Directory Server を起動して確認します。最初に Directory Server インスタンスを起動するのは、ほかのすべてのコンポーネントがディレクトリサービスを使用するためです。
3. Web Server を起動します。Web Server を起動すると、Web Server の Web コンテナ内で実行されるコンポーネントである Access Manager と Portal Server が起動します。
4. Access Manager が動作していることを確認します。ほかのコンポーネントが Access Manager の認証サービスを使用するため、Access Manager が動作している必要があります。
5. Portal Server が稼働していることを確認します。
6. 通信コンポーネントとともに使用できるように Directory Server を設定します。
7. Messaging Server のインスタンスを作成、設定、および起動します。Directory Server および Access Manager と相互運用するように Messaging Server インスタンスを設定します。Messaging Server を設定することにより、メールアドレスに対応する LDAP ツリーのブランチが作成されるため、残りのコンポーネントの前に Messaging Server を設定する必要があります。次に、それぞれのユーザーとグループのデータに対応する新しいブランチを使用するように残りのコンポーネントを設定します。
8. Messaging Server インスタンスを確認します。
9. Calendar Server のインスタンスを作成、設定、および起動します。Messaging Server、Directory Server、および Access Manager と相互運用するように Calendar Server インスタンスを設定します。
10. Calendar Server インスタンスを確認します。
11. Communications Express のインスタンスを作成、設定、および起動します。Calendar Server、Messaging Server、Directory Server、および Access Manager と相互運用するように Communications Express インスタンスを設定します。
12. Instant Messaging のインスタンスを作成、設定、および起動します。
13. Instant Messaging インスタンスを確認します。
14. Delegated Administrator のインスタンスを作成、設定、および起動します。
15. Delegated Administrator を使用して、メールサービスとカレンダーサービス用に LDAP スキーマを拡張します。
16. Delegated Administrator を使用して、テスト用のエンドユーザーアカウントを作成します。
17. シングルサインオン用に Messaging Server、Calendar Server、および Portal Server を設定します。

18. テストユーザーアカウントがシングルサインオンを使って Communications Express にログインし、メールサービスとカレンダーサービスを利用できることを確認します。
19. テストユーザーアカウントがシングルサインオンによるログインを使って、ポータルデスクトップ経由でメールサービスとカレンダーサービスにアクセスできることを確認します。

評価ソリューションの設定の依存関係は複数システムによる運用ソリューションの場合と同じであるため、設定タスクの順序は大規模なソリューションで使われる順序とほぼ同じです。

大規模な複数システムによるソリューションでは、多くの場合、順序が複雑になります。たとえば、Directory Server の複数のインスタンスをインストールし、すべての Directory Server インスタンスを起動するには、複数のシステム上でインストーラを実行することが必要な場合があります。次に、別の一連のシステム上でインストーラを実行して Messaging Server の複数のインスタンスをインストールし、続いて Messaging Server インスタンスを設定する、ということを繰り返します。

インストールと設定の計画の詳細

完全なインストールと設定の計画には、個々の Java ES ソリューション向けの正しい順序でインストーラと設定ウィザードが記載されます。計画には、インストーラまたは設定ウィザードごとに、インストーラまたは設定ウィザードの実行時にユーザーが指定する値が記載されます。完成した計画は、インストールと設定のプロセスの手引きになります。

この計画は、インストーラや設定ウィザードの実行方法を示すものではありません。実行する必要がある設定を正しい順序で記載し、各設定タスクで指定する必要がある重要な値を規定するだけです。

インストールと設定の計画は、ソリューションのインストールと設定に使われるツールごとに構成されます。次の各節に、評価ソリューションのインストール計画を示します。

Java ES インストーラの詳細

ここでは、Java ES インストーラを使って評価ソリューションをインストールするときに入力する値を示します。評価ソリューションでは、このインストーラを使ってソリューション内で使用されるすべてのコンポーネントをインストールし、Directory Server、Web Server、Access Manager、および Portal Server を設定します。ほかのコンポーネントは、個々のコンポーネント設定ウィザードを使ってあとで設定します。

入力値を表 4-1 に示します。インストーラの詳しい実行手順については、第 5 章を参照してください。

表 4-1 Java ES インストーラの入力値

インストーラのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
言語サポート	サポートする言語を選択します。英語は必ずサポートされます。	評価ソリューションでサポートされる言語を指定します。
コンポーネントの選択	アーキテクチャー内で識別されるコンポーネントを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Messaging Server ■ Calendar Server ■ Instant Messaging ■ Portal Server ■ Communications Express ■ Web Server ■ Access Manager ■ Directory Server ■ Administration Server 	インストールするコンポーネントを選択します。
インストールディレクトリ	デフォルト値を受け入れます。	コンポーネントファイルのデフォルトディレクトリを受け入れます。
設定タイプ	「今すぐ設定」を選択します。	インストーラが一部のコンポーネントを設定するように指定します。
共通サーバー設定	管理者パスワード: password	以降のページに表示されるデフォルト値を設定します。
Web Server: 管理 (1 / 2)	デフォルト値を受け入れます。	Web Server の管理者アカウントを作成します。
Web Server: デフォルトの Web Server インスタンス (2 / 2)	実行時ユーザー ID: root 実行時グループ: other システム再起動時に自動的に Web Server を起動: 選択 Web Server のユーザーおよびグループのアクセス権は、Web Server 内で実行されるコンポーネントのアクセス権と一致する必要があります。	Access Manager および Portal Server と相互運用するように Web Server を設定します。
Directory Server: 管理 (1 / 5)	デフォルト値を受け入れます。	管理者アカウントとディレクトリマネージャアカウントを設定します。

表 4-1 Java ES インストーラの入力値 (続き)

インストーラのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
Directory Server: サーバー設定 (2 / 5)	サーバー識別子: デフォルト (<i>evaluation_host</i>) サーバーポート: デフォルト (389) サフィックス: o=examplecorp 管理ドメイン: example.com システムユーザー: root システムグループ: other	評価ソリューションのベース DN を指定します。
Directory Server: 設定ディレクトリの設定 (3 / 5)	デフォルト値を受け入れます。	Directory Server インスタンスが設定データとして使用されるように指定します。
Directory Server: サーバー設定 (4 / 5)	デフォルト値を受け入れます。	Directory Server インスタンスがユーザーおよびグループのデータとして使用されるように指定します。
Directory Server: サーバー設定 (5 / 5)	デフォルト値を受け入れます。	インストーラがディレクトリにサンプルデータを入力するように指定します。
管理サーバー: サーバー設定 (1 / 2)	デフォルト値を受け入れます。	Directory Server と相互運用するように Administration Server を設定します。
管理サーバー: サーバー設定 (2 / 2)	デフォルト値を受け入れます。	Directory Server と相互運用するように Administration Server を設定します。
Access Manager: 管理 (1 / 6)	パスワード: password LDAP パスワード: ldappassword	管理者アカウントを設定します。
Access Manager: Web コンテナ (2 / 6)	デフォルト値を受け入れます。	Access Manager が Web Server の Web コンテナの内部で実行されるように指定します。

表 4-1 Java ES インストーラの入力値 (続き)

インストーラのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
Access Manager: Sun Java System Web Server (3 / 6)	デフォルト値を受け入れます。	Web Server と相互運用するように Access Manager を設定します。
Access Manager: Identity Server サービスを実行するための Web コンテナ (4 / 6)	デフォルト値を受け入れます。	Access Manager が Web Server に配備されるように設定します。
Access Manager: Directory Server 情報 (5 / 6)	デフォルト値を受け入れます。	Directory Server と相互運用するように Access Manager を設定します。
Access Manager: Directory Server 情報 (6 / 6)	デフォルト値を受け入れます。	現時点では Directory Server インスタンスにユーザーおよびグループのデータを入れないように指定します。
Portal Server: Web コンテナ (1 /)	デフォルト値を受け入れます。	Portal Server インスタンスが Web Server の Web コンテナ内で実行されるように指定します。
Portal Server: Sun Java System Web Server (2 /)	デフォルト値を受け入れます。	Portal Server インスタンスが Web Server の Web コンテナ内に配備されるように設定します。
Portal Server: Web コンテナ配備 (3 /)	デフォルト値を受け入れます。	Web Server インスタンスが Portal Server に配備されるように設定します。

Directory Server Preparation Tool の詳細

Directory Server Preparation Tool は、Directory Server インスタンスを通信コンポーネントとともに使用できるように設定します。評価ソリューションでは、Java ES インストーラで作成した Directory Server インスタンスを指定するための値を入力します。入力値を表 4-2 に示します。Preparation Tool の詳しい実行手順については、78 ページの「通信サービス用のディレクトリの設定」を参照してください。

表 4-2 Directory Server Preparation Tool の入力値

プロンプト	入力値	入力の意味
Enter the Full Path to the Directory Where the Sun ONE Directory Server Was Installed:	次のデフォルト値を受け入れます。 /var/opt/mps/serverroot	Directory Server をインストールしたディレクトリを特定します。
Which Instance Do You Want?	インストーラによって作成されたインスタンス (slapd_evaluation_host) を選択します。通常はこれがデフォルト値です。	インストーラで作成した Directory Server インスタンスを特定します。
Please Enter the Directory Manager DN:	デフォルト値 (cn=Directory Manager) を受け入れます。	インストーラで確立したディレクトリマネージャー DN を指定します。
Please Enter the Directory Manager password:	パスワードを入力します。	インストーラで確立したディレクトリマネージャーパスワードを指定します。
Will This Directory Server Be Used For Users and Groups?	デフォルト値 (「はい」) を受け入れます。	ディレクトリをユーザーとグループのために使用することを指示します。
Please Enter the User/Groups Base Suffix:	デフォルト値 (o=examplecorp) を受け入れます。	インストーラで確立したディレクトリのベースサフィックスを指定します。
Please Enter the Schema Type:	デフォルト値 (2) を受け入れます。	ディレクトリがスキーマ 2 を使用することを指示します。Access Manager をインストールすると、ディレクトリがスキーマ 2 用に設定されます。

Messaging Server 設定ウィザードの詳細

Messaging Server 設定ウィザードは、Java ES インストーラを使ってインストールした Messaging Server サーバーソフトウェアのインスタンスを作成します。評価ソリューションでは、Directory Server インスタンスと相互運用する Messaging Server インスタンスを作成する必要があります。Messaging Server 設定ウィザードの入力値を表 4-3 に示します。このウィザードの詳細な実行手順については、81 ページの「Messaging Server の設定」を参照してください。

表 4-3 Messaging Server 設定ウィザードの入力値

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
完全指定ホスト名	<i>evaluation_host</i> の完全指定ホスト名。	Messaging Server インスタンスを作成するコンピュータシステムを指定します。
設定ファイルおよびデータファイルを保存するディレクトリの選択	デフォルト値 (/var/opt/SUNWmsgsr) を受け入れます。	インスタンスの設定データ用のデフォルトディレクトリを受け入れます。
設定するコンポーネントの選択	デフォルト値 (Message Transfer Agent, Message Store、および Messenger Express が選択された状態) を受け入れます。	指定したコンピュータシステム上で設定する Messaging Server のサブコンポーネントを指定します。評価ソリューションでは、基本的なメッセージングサービスに必要な3つのサブコンポーネントが選択されます。
Messaging Server のユーザーとグループ	ユーザー名: mailsrv グループ: mail	Messaging Server インスタンスを管理するために使用されるユーザーおよびグループを指定します。
設定 Directory Server	設定サーバー LDAP URL: ldap:// <i>evaluation_host</i> :389 バインド: cn=Directory Manager パスワード: password	Messaging Server インスタンスによって生成された設定データのための Directory Server インスタンスを指定します。
「ユーザー/グループ Directory Server」パネル	ユーザー/グループサーバー LDAP URL: ldap:// <i>evaluation_host</i> :389 バインド: cn=Directory Manager パスワード: password	Messaging Server インスタンスがユーザーおよびグループのデータを検索する Directory Server インスタンスを指定します。評価ソリューションでは、この Directory Server インスタンスが設定ディレクトリとしても使用されます。
ポストマスターのメールアドレス	メールアドレスの入力: admin@examplecorp.com	ポストマスター通知のためのメールアドレスを指定します。

表 4-3 Messaging Server 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
すべての管理アカウントのパスワード	パスワードの入力: password パスワードの再入力: password	Messaging Server の管理アカウントのパスワードを指定します。
デフォルトの電子メールアドレスメイン	電子メールアドレスメインの入力: examplecorp.com	Messaging Server インスタンスによって管理されるデフォルトの電子メールアドレスメインを指定します。
デフォルトの電子メールアドレスメインの組織 DN	電子メールアドレスメインの入力: o=examplecorp.com,o=examplecorp	デフォルトの電子メールアドレスメインのユーザーおよびグループのデータに使用される LDAP 組織を指定します。設定ウィザードはこの LDAP 組織を作成します。

Calendar Server 設定ウィザードの詳細

Calendar Server 設定ウィザードは、Java ES インストーラを使ってインストールした Calendar Server サーバーソフトウェアの実行可能なインスタンスを作成します。評価ソリューションでは、Directory Server インスタンスと相互運用する Calendar Server インスタンスを作成する必要があります。Messaging Server 設定ウィザードの入力値を表 4-4 に示します。この設定ウィザードの詳細な実行手順については、89 ページの「Calendar Server インスタンスの設定」を参照してください。

表 4-4 Calendar Server 設定ウィザードの入力値

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
管理、ユーザー設定、および認証	LDAP サーバーホスト名: <i>evaluation_host</i> LDAP サーバーのポート: 389 ディレクトリマネージャー DN: cn=Directory Manager ディレクトリマネージャーパスワード: password ベース DN: o=examplecorp.com,o=examplecorp 管理者ユーザー ID: calmaster 管理者パスワード: password	Directory Server と相互運用するように Calendar Server インスタンスを設定します。また、管理者アカウントも指定します。

表 4-4 Calendar Server 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
メールと電子メールアラーム	電子メールアラーム: 有効 管理者のメールアドレス: calmaster@examplecorp.com SMTP ホスト名: <i>evaluation_host</i>	calmaster アカウントに電子メールアラームを送信するように Calendar Server インスタンスを設定します。
「ランタイム設定」ページ	サービスポート: 89 最大セッション: 5000 スレッドの最大数: 20 サーバープロセス数: 1 実行時ユーザー ID: icsuser 実行時グループ: icsgroup 設定完了後に起動: 選択 システム起動時に起動: 選択	Calendar Server インスタンスの実行時の特性を設定します。
設定ファイルおよびデータファイルを保存するディレクトリ	デフォルト値を受け入れます。	設定ウィザードの設定プロセスによって生成されるファイルのディレクトリを指定します。
アーカイブとホットバックアップの設定	デフォルト値を受け入れます。	アーカイブ機能とホットバックアップ機能で使用するディレクトリを指定します。

Instant Messaging 設定ウィザードの詳細

Instant Messaging 設定ウィザードは、Java ES インストーラを使ってインストールした Instant Messaging サーバーソフトウェアの実行可能なインスタンスを作成します。評価ソリューションでは、Directory Server インスタンスと相互運用する Instant Messaging インスタンスを作成する必要があります。Instant Messaging 設定ウィザードの入力値を表 4-5 に示します。この設定ウィザードの詳細な実行手順については、94 ページの「Instant Messaging インスタンスの設定」を参照してください。

表 4-5 Instant Messaging 設定ウィザードの入力値

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
コンポーネントの選択	デフォルト値 (3つのコンポーネントがすべて選択された状態) を受け入れます。	コンピュータシステムにインストールされた Instant Messaging のサブコンポーネントを指定します。評価ソリューションでは、すべてのサブコンポーネントが同じシステムにインストールされません。
ネットワーク接続	デフォルト値によって評価システムが特定されることを確認します。 ホスト名: <i>evaluation_host</i> DNS ドメイン名: <i>evaluation_domain</i>	Instant Messaging のネットワーク接続を特定します。
IM Server/ Identity Server のオプション	シングルサインオン: 選択 Policy Agent: 選択	Access Manager と相互運用するように Instant Messaging を設定します。
Instant Messaging Server の実行時ファイルディレクトリ	デフォルト値を受け入れます。	実行時ファイルのために使用されるディレクトリを指定します。
Instant Messaging Server の設定	ドメイン名: <i>examplecorp.com</i> IM サーバーのポート: 45222 マルチプレクサのポート: 5222	ユーザーおよびグループのデータ用に <i>examplecorp.com</i> LDAP 組織を使用するように Instant Messaging インスタンスを設定します。
Instant Messaging LDAP の設定	LDAP ホスト名: <i>evaluation_host</i> LDAP ポート番号: 389 ベース DN: <i>o=examplecorp.com,o=examplecorp</i> バインド DN: <i>cn=Directory Manager</i> パスワード: <i>password</i>	Directory Server と相互運用するように Instant Messaging を設定します。Instant Messaging のユーザーデータが <i>examplecorp.com</i> LDAP 組織内で見つかるように指定します。
Instant Messaging のコードベースの選択	コードベース: <i>http://evaluation_host:80/im</i>	ユーザーが Instant Messaging リソースをダウンロードするための URL を設定します。

表 4-5 Instant Messaging 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
アイデンティティオプションの選択	デフォルト値を受け入れます。	Instant Messaging サービスの既存のユーザーを承認しないようにします。
Instant Messaging サービスの起動	デフォルト値 (両方のサービスが選択された状態) を受け入れます。	設定が完了したとき、およびコンピュータシステムが再起動するたびに Instant Messaging サービスが起動するように設定します。

Communications Express 設定ウィザードの詳細

Communications Express 設定ウィザードは、Java ES インストーラを使ってインストールした Communications Express サーバーソフトウェアの実行可能なインスタンスを作成します。評価ソリューションでは、Directory Server インスタンスと相互運用する Communications Express インスタンスを作成する必要があります。

Communications Express 設定ウィザードの入力値を表 4-6 に示します。この設定ウィザードの詳しい実行手順については、99 ページの「Communications Express インスタンスの設定」を参照してください。

表 4-6 Communications Express 設定ウィザードの入力値

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
設定ファイルおよびデータファイルを保存するディレクトリの選択	デフォルト値を受け入れます。	インスタンスのデータを保存するためのデフォルトディレクトリを受け入れます。
メールおよびカレンダーコンポーネントのインストール	デフォルト値 (メールとカレンダーの両方が選択された状態) を受け入れます。	メールとカレンダーの両方のインタフェースを提供するようにインスタンスを設定します。
ネットワーク接続	ホスト名: <i>evaluation_host</i> DNS ドメイン名: <i>evaluation_domain</i>	Communications Express のネットワーク接続を確認します。
Web コンテナの選択	デフォルト値 (Web Server が選択された状態) を受け入れます。	Web Server をインスタンスの Web コンテナ (Web Server) として指定します。

表 4-6 Communications Express 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
Web Server の設定の詳細	サーバールートディレクトリ: 1 サーバースタンスの識別子: <i>evaluation_host</i> 仮想サーバの識別子: <i>https-evaluation_host</i> 「HTTP ポート」フィールド: 80	Communications Express の配備先となる Web Server インスタンスを指定します。
Web コンテナのユーザーとグループ	Web コンテナのユーザー ID: root Web コンテナのグループ: other	Web Server 内の Communications Express を実行するユーザーアカウントを指定します。
URI パス	デフォルト値を受け入れます (http://evaluation_host:80/uwc)。	Web Server に配備された Communications Express の URL を指定します。
ホストドメインのサポートを使用しますか?	デフォルト値 (ホストされたドメインのサポートを選択しない) を受け入れます。	評価ソリューションにはホストされたドメインのサポートが必要でないことを指示します。
ユーザー/グループの Directory Server の詳細	LDAP URL: ldap://evaluation_host:389 バインド DN: cn=Directory Manager 管理者パスワード: password	Directory Server と相互運用するように Communications Express を設定します。
DC ツリーのサフィックス	デフォルト値 (o=examplecorp) を確認します。	Java ES インストーラを使って確立した LDAP ディレクトリのベースサフィックスを使用するように Communications Express を設定します。
デフォルトのドメイン名	ドメイン名の入力: examplecorp.com	ユーザーおよびグループのデータに関して LDAP ディレクトリ内の examplecorp.com 組織を使用するように Communications Express を設定します。

表 4-6 Communications Express 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
Identity Server の設定	ログイン URL: http:// <i>evaluation_host</i> :80/amserver/ UI/login 管理者 DN: uid=amAdmin,ou=People,o=examplecorp	Access Manager と相互運用するように Communications Express を設定します。
Messenger Express のポート	Messenger Express のポート: 88	Messaging Server と相互運用するように Communications Express を設定します。
Calendar Server のホストおよびポート	Calendar Server のホスト名: <i>evaluation_host</i> Calendar Server のポート番号: 89	Calendar Server と相互運用するように Communications Express を設定します。
Calendar Server の管理の詳細	管理者ユーザー ID: calmaster 管理者パスワード: password	Calendar Server と相互運用するように Communications Express を設定します。
ポストマスターのメールアドレス	admin@examplecorp.com	評価ソリューションのポストマスターアカウントを指定します。
PAB Directory Server の詳細	ログイン URL: ldap:// <i>evaluation_host</i> :389 管理者 DN: cn=Directory Manager 管理者パスワード: password	Java ES インストーラを使って作成した Directory Server インスタンスを個人用アドレス帳のディレクトリとして使用するように Communications Express を設定します。

Delegated Administrator 設定ウィザードの詳細

Delegated Administrator 設定ウィザードは、Java ES インストーラを使ってインストールした Delegated Administrator ソフトウェアの実行可能なインスタンスを作成します。評価ソリューションでは、Directory Server インスタンスと相互運用する Delegated Administrator インスタンスを作成する必要があります。Delegated Administrator 設定ウィザードの入力値を表 4-7 に示します。この設定ウィザードの詳細な実行手順については、109 ページの「Delegated Administration ユーティリティの設定」を参照してください。

表 4-7 Delegated Administrator 設定ウィザードの入力値

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
設定ファイルおよびデータファイルを保存するディレクトリ	デフォルト値を受け入れます。	インスタンスのデータを保存するためのデフォルトディレクトリを受け入れます。
設定するコンポーネントの選択	デフォルト値 (3 つのコンポーネントがすべて選択された状態) を受け入れます。	3 つのサブコンポーネントがすべて設定されるように指定します。
Access Manager のホストおよびポート	ホスト名: <i>evaluation_host</i> ポート: 80	Access Manager と相互運用するように Delegated Administrator を設定します。
デフォルトのドメイン	ドメインの入力: <i>examplecorp.com</i>	ユーザー管理操作のデフォルトの場所として <i>examplecorp.com</i> 組織を使用するように Delegated Administrator を設定します。
Delegated Administration クライアントのデフォルト SSL ポート	デフォルト値を受け入れます。	Delegated Administrator による SSL 通信のデフォルトポートを受け入れます。
Web コンテナ	デフォルト値を受け入れます (Web Server が選択された状態)。	Delegated Administrator が Web コンテナサービスに Web Server を使用するように指定します。
Web Server の設定の詳細	サーバールートディレクトリ: <i>/opt/SUNWwbsvr</i> サーバーインスタンスの識別子: <i>evaluation_host</i> 仮想サーバーの識別子: <i>https-evaluation_host</i> サーバー HTTP ポート: 80	Java ES インストーラを使って作成した Web Server インスタンスに Delegated Administrator が配備されるように指定します。
Access Manager ベースディレクトリ	デフォルト値を受け入れます。	Access Manager インスタンスのデータ用のディレクトリを指定します。

表 4-7 Delegated Administrator 設定ウィザードの入力値 (続き)

ウィザードのページ	フィールド名と入力値	入力の意味
Directory (LDAP) Server	LDAP URL: http:// <i>evaluation_host</i> :389 バインド名: cn=Directory Manager パスワード: password	Directory Server と相互運用するように Delegated Administrator を設定します。
Access Manager の最上位管理者	ユーザー名: amadmin パスワード: password	Access Manager のログイン情報を使って Delegated Administrator を設定します。
Access Manager の内部 LDAP 認証パスワード	ユーザー名: amldapuser パスワード: ldappassword	Access Manager の LDAP 認証パスワードを使って Delegated Administrator を設定します。
デフォルトのドメインの組織 DN	組織 DN の入力: o= <i>examplecorp.com</i> ,o= <i>examplecorp</i>	「デフォルトのドメイン」 ページで指定したデフォルトのドメインの LDAP 識別名を指定します。
デフォルト組織の最上位管理者	ユーザー名: admin パスワード: password	Delegated Administrator のデフォルトのドメインの最上位管理者を定義します。(Delegated Administrator は、管理権限を異なるレベルの管理者に振り分けることができます。この機能は評価ソリューションでは使用されません。)
サービスパッケージと組織のサンプル	サンプルサービスパッケージを読み込む: 選択 サンプル組織を読み込む: 選択 優先メールホスト: <i>evaluation_host</i>	設定ウィザードがサンプルサービスデータを使ってデフォルトのドメインを設定するように指定します。

Delegated Administrator コマンド行の詳細

ここでは、メッセージングサービスやカレンダーサービスのユーザー認証に使われる *examplecorp.com* 組織を設定したり、テスト用のエンドユーザーアカウントを作成したりするときに使用するコマンドの概要を示します。これらのコマンドの概要を表

4-8 に示します。これらのコマンドの実行手順は、116 ページの「メールサービスおよびカレンダーサービス用の LDAP 組織の設定」および 117 ページの「エンドユーザーアカウントのプロビジョニング」にあります。

表 4-8 Delegated Administrator コマンドの概要

Delegated Administrator コマンド	コマンド構文	入力の意味
commadmin domain modify	-D admin (管理者ユーザーアカウント) -w password (管理者アカウントのパスワード) -d examplecorp.com (変更するドメイン) -S mail (メールサービスの追加) -H evaluation_host (メールサービスを実行するシステム) -s cal (カレンダーサービスの追加) -B evaluation_host (カレンダーサービスを実行するシステム) -P allowProxyLogin:yes (プロキシログインの許可) -T America/Los_Angeles (タイムゾーンの設定)	メールサービスとカレンダーサービスのユーザー認証に使用される examplecorp.com 組織にオブジェクトクラスを追加します。

表 4-8 Delegated Administrator コマンドの概要 (続き)

Delegated Administrator コマンド	コマンド構文	入力の意味
comadmin user create	<p>-D admin (管理者ユーザーアカウント)</p> <p>-w password (管理者ユーザーパスワード)</p> <p>-l TestUser (ユーザーのアカウント名)</p> <p>-F Test (ユーザーの姓)</p> <p>-L User (ユーザーの名)</p> <p>-W password (ユーザーアカウントのパスワード)</p> <p>-S mail (メールサービスに関するユーザーの承認)</p> <p>-H evaluation_host (メールサービスを実行するシステム)</p> <p>-E test.user@examplecorp.com (ユーザーの電子メール)</p> <p>-S cal (カレンダーサービスに関するユーザーの承認)</p> <p>-B evaluation_host (カレンダーサービスを実行するシステム)</p> <p>-J 0</p> <p>-T America/Los_Angeles (ユーザーのタイムゾーン)</p> <p>-k legacy</p>	<p>評価サービスを使用するユーザーアカウントを作成します。</p>
comadmin user modify	<p>-D admin (管理者ユーザーアカウント)</p> <p>-w password (管理者アカウントのパスワード)</p> <p>-l TestUser (変更するユーザーアカウント)</p> <p>-A</p> <p>+objectclass:sunssoadapterperson (ポータルサービスに関するユーザーの承認)</p> <p>-A</p> <p>+objectclass:sunportaldesktopperson (ポータルデスクトップにアクセスするユーザーの承認)</p>	<p>テストユーザーアカウントに、そのアカウントを承認されたポータルユーザーとして識別するオブジェクトクラスを追加します。</p>

第 5 章

コンポーネントのインストール

この章では、評価ソリューションで使用されるコンポーネントをインストールする方法について説明します。インストール先のシステムにソフトウェアをコピーし、いくつかの必要な事前作業を実行し、Java ES インストーラを実行します。インストーラを実行する際に、インストールと設定の計画で作成した値を入力します。(入力値のサマリーについては、38 ページの「Java ES インストーラの詳細」を参照してください。)

この章では、次の節でインストールのプロセスについて説明します。

- 55 ページの「インストール要件の確認」
- 56 ページの「事前作業」
- 57 ページの「コンポーネントのインストール」
- 70 ページの「インストールログファイルの確認」

インストール要件の確認

インストーラを実行する前に、インストール先のシステムが次の要件を満たしていることを確認します。

- システムは、Java ES のハードウェア要件、オペレーティングシステム要件、およびパッチ要件を満たす必要があります。これらの要件は、<http://docs.sun.com/doc/817-7047?l=ja> の『Java Enterprise System リリースノート』にリスト表示されています。パッチは <http://sunsolve.sun.com> で入手できます。Java ES インストーラはこれらの要件についてシステムを確認しますが、始める前にシステムを確認したほうが手間がかかりません。
- インストーラは、root で実行する必要があります。Java ES のインストール先システムに対して、root アクセス権を持っていることを確認します。

- このインストール手順は、Solaris™ 9 Operating System が稼動しているシステムに対するものです。Solaris 8 Operating System にインストールする場合には、一部のパッチ名は、この手順に示されるパッチの名前とは多少異なります。

事前作業

ここでは、インストーラを実行する前に行う必要のある2つのタスクについて説明します。これらのタスクを行うことで、システムへのインストールが正常に行われる準備が整います。

▼ インターネットホストテーブルを確認するには

システムのインターネットホストテーブルには、システムの完全修飾ホスト名が含まれている必要があります。

- 手順
1. **Java Enterprise System** のインストール先システムに **root** としてログインします。
 2. テキストエディタで **/etc/hosts** ファイルを開きます。
 3. **/etc/hosts** ファイルに、システムの完全修飾ホスト名が含まれていることを確認します。

たとえば、**evaluation.example.com** という名前のシステムの場合、**/etc/host** ファイルに次の行が含まれます。

```
#
# Internet host table
#
127.0.0.1          localhost
192.18.78.28      evaluation.example.com      evaluation
```

完全修飾のホスト名は、非修飾名の前にある必要があります。実際の **/etc/host** ファイルには、使用するシステムについての同様の情報が含まれている必要があります。

▼ sendmail プロセスを無効にするには

sendmail プロセスは、**Java Enterprise System** の通信サービスと衝突する可能性があります。Java Enterprise System をインストールする前に、このプロセスを無効にします。

- 手順
1. 次のコマンドを実行して、**sendmail** プロセスを停止します。
- ```
/etc/init.d/sendmail stop
```

2. 次のコマンドを実行して、**sendmail** の起動を無効にします。

```
mv /etc/init.d/sendmail /etc/init.d/sendmail.disabled
```

---

## コンポーネントのインストール

この節では、Java ES インストーラを実行する手順について説明します。評価のインストールと設定の計画で作成したインストーラの入力値を使用します(値のサマリーとそれらの値が選択された理由に関する説明については、38 ページの「[Java ES インストーラの詳細](#)」を参照)。

---

注 - このマニュアル全体で、変数 *evaluation\_host* および *evaluation\_domain* が含まれているコマンドが示されます。そのコマンドを実行する際は、使用しているコンピュータシステムのホスト名またはドメイン名で置き換える必要があります。これらの変数は次のように定義されています。

- *evaluation\_host*: Java Enterprise System コンポーネントのインストール先システムの完全修飾ドメイン名です。たとえば、*evaluation.example.com* という名前のシステムにインストールする場合、*evaluation\_host* は *evaluation.example.com* になります。*evaluation\_host* を使用して、コンポーネント間の通信を設定します。たとえば、*evaluation\_host:389* の Directory Server に接続するようにコンポーネントを設定します。また、Access Manager、Messaging Server、Calendar Server、および Portal Server に対する Web ベースのインタフェースの URL で、*evaluation\_host* を使用します。
- *evaluation\_domain*: コンポーネントのインストール先システムの DNS ドメインの名前。たとえば、*evaluation.example.com* という名前のシステムにインストールする場合、*evaluation\_domain* は *example.com* になります。

### ▼ インストールプロセスを開始するには

- 手順
1. **Java Enterprise System** のインストール先マシンに **root** としてログインします。
  2. 次のいずれかの方法で、**Java ES 2005Q1** ソフトウェアを入手します。
    - <http://www.sun.com> の **Java Enterprise System** サイトからソフトウェアをダウンロードする。ソフトウェア用のディレクトリ (*download-directory*) を作成します。ソフトウェアをダウンロードし、アンパックします。ソフトウェアをアンパックすると、*download-directory* のサブディレクトリが作成されます。
    - **CD** または **DVD** からインストーラを実行する。CD または DVD を適切なドライブに挿入します。

3. インストールするプラットフォームの *platform-directory* に移動します。  
*platform-directory* は、**Solaris\_sparc** または **Solaris\_x86** のいずれかです。
  - ソフトウェアをダウンロードしてアンパックした場合、*platform-directory* は、*download-directory* のサブディレクトリです。  
`cd download-directory/platform-directory`
  - **CD** からインストーラを実行している場合、*platform-directory* は、*cdrom* ディレクトリのサブディレクトリです。  
`cd cdrom/platform-directory`
  - **DVD** からインストーラを実行している場合は、DVD 上の *platform-directory* に移動します。
4. 次のコマンドを実行して **Java Enterprise System** インストーラを起動します。  
`./installer`  
「ようこそ」ページが表示されます。
5. 「次へ」をクリックします。  
「ソフトウェアライセンス契約」ページが表示されます。
6. 「はい」をクリックし、ライセンスの条項に同意します。  
「言語サポート」ページが表示されます。
7. 評価ソリューションでサポートする英語以外の言語を選択します。英語は必ずサポートされます。  
「次へ」をクリックします。「コンポーネントの選択」ページが表示されます。

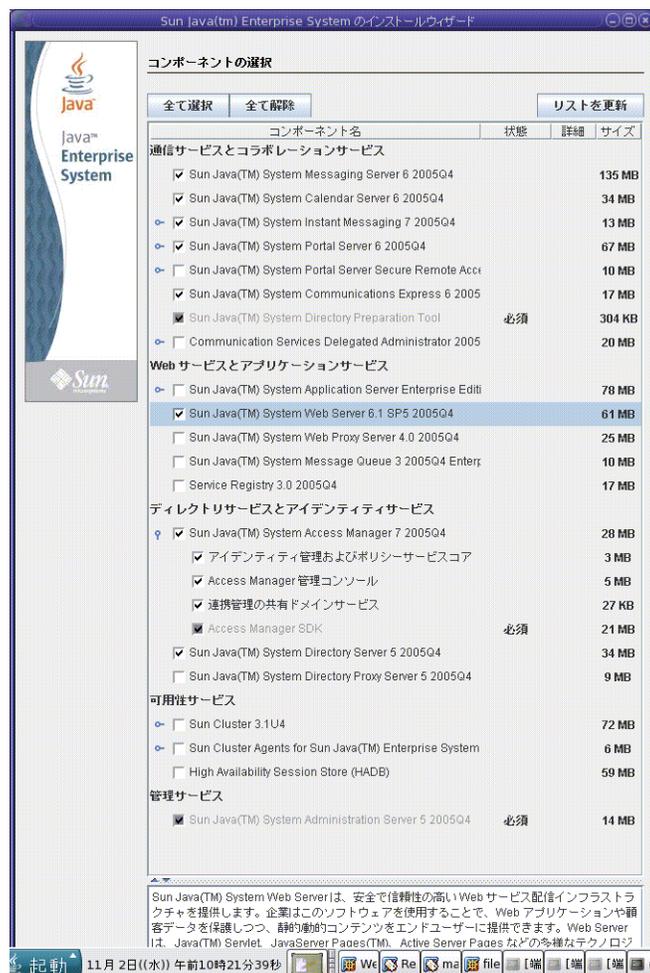


図 5-1 「コンポーネントの選択」 ページ

## ▼ インストールするコンポーネントを選択するには

- 手順 1. 評価ソリューションで使用するコンポーネントを選択します。次の操作を行います。
- 「Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1」を選択します。
  - 「Sun Java System Calendar Server 6 2005Q1」を選択します。
  - 「Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1」を選択します。
  - 「Sun Java System Portal Server 6 2005Q1」を選択します。
  - 「Sun Java System Communications Express 6 2005Q1」を選択します。

- 「Sun Java System Directory Preparation Tool」は自動的に選択されています。
- 「Sun Java System Web Server 6.1 SP4 2005Q1」を選択します。
- 「Sun Java System Access Manager 6 2005Q1」は自動的に選択されています。
- 「Sun Java System Directory Server 5 2005Q1」は自動的に選択されています。
- 「Sun Java System Administration Server 5 2005Q1」は自動的に選択されています。

これらの選択内容は、[図 5-1](#) に示されています。「次へ」をクリックします。インストーラにより選択内容が検証され、選択したコンポーネントとすでにシステムにインストールされているソフトウェアとの間に互換性があるかどうかチェックされます。互換性チェックの結果を示すページが表示されます。

2. 選択内容に対するインストーラの応答を確認します。

インストーラは、3種類の互換性をチェックします。システムに応じて、互換性がないことを報告する次のページは、まったく表示されないか、1～3ページ表示されます。

- a. インストーラにより、選択したコンポーネントとすでにシステムに存在するコンポーネントとの間に互換性がないと判定される場合があります。

[図 5-2](#) に示されている、「製品の依存関係のチェック」ダイアログボックスが表示されます。



図 5-2 「製品の依存関係のチェック」ダイアログボックス

続行する前に、このダイアログボックスで示された非互換性を解決する必要があります。場合によっては、インストーラを終了し、互換性のないソフトウェアをアップグレードまたは削除してから、インストーラを最初からやり直す必要があります。

- b. インストーラにより、すでにシステムにインストールされている **Java™ 2 Software Development Kit, Standard Edition (J2SE™ SDK)** には、インストール対象として選択したコンポーネントとの互換性がないと判定される場合があります。

「J2SE Software Development Kit のアップグレードが必要です」ページが表示されます。

「了解」をクリックして、デフォルト値の「Sun Java™ Enterprise system コンポーネント製品用の J2SE SDK を別にインストール」を受け入れます。

- c. インストーラにより、すでにシステムにインストールされている共有コンポーネントには、インストール対象として選択したコンポーネントとの互換性がないと判定される場合があります。

図 5-3 に示す、「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページが表示されます。

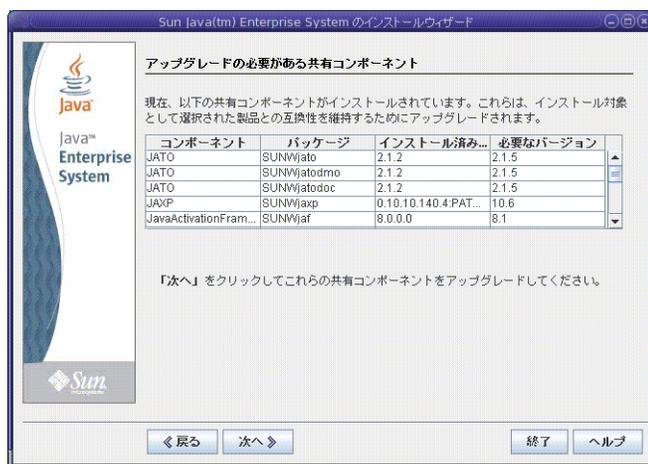


図 5-3 「アップグレードの必要がある共有コンポーネント」ページ

「次へ」をクリックして、共有コンポーネントをアップグレードします。

---

注 - 共有コンポーネントは、Java ES コンポーネントに対して、ローカルサービスとテクノロジサポートを提供します。Java ES をインストールする場合、インストーラは、選択した Java ES コンポーネントにとって必要な共有コンポーネントを自動的にインストールします。

---

- d. インストーラにより、システムには、選択したコンポーネントと全面的に互換性があると判定される場合があります。「インストールディレクトリ」ページが表示されます。
3. 「次へ」をクリックしてデフォルトのインストールディレクトリを受け入れます。「システム要件の確認」ページが表示されます。
4. 「システム要件の確認」ページが次のシステム要件についてシステムを検証している間、待機します。
- ディスク容量
  - メモリ
  - オペレーティングシステムのパッチ
  - オペレーティングシステムのリソース

5. システム要件チェックの結果を確認します。
  - メモリ不足の警告は無視します。評価ソリューションでは、運用ソリューションほど多くのメモリを必要としません。
  - インストーラを閉じる必要があると警告するパッチを受信した場合は、パッチをインストールし、インストーラを最初からやり直します。

システムチェックの結果に問題がなくなったら、「次へ」をクリックします。「設定タイプ」ページが表示されます。

## ▼ 設定の種類を指定するには

- 手順 1. 「今すぐ設定」を選択します。
- 「今すぐ設定」を選択すると、インストールするほとんどのコンポーネントの設定値が指定されます。インストーラにより、インストーラのページで指定した値に基づいてコンポーネントが設定されます。

「次へ」をクリックします。「カスタム設定」ページが表示されます。

2. インストーラが設定できないコンポーネントのリストを確認します。

Java ES インストーラは Directory Preparation Tool、Instant Messaging、Calendar Server、Messaging Server、または Communications Express を設定しないことがメッセージで示されます。Calendar Server、Messaging Server、および Instant Messaging と Communications Express を設定する方法については、[第 6 章](#)を参照してください。

「次へ」をクリックします。「共有サーバー設定」ページが表示されます。



図 5-4 「共有サーバー設定」 ページ

## ▼ 共通サーバー設定を入力するには

- 手順 ● インストーラによって設定されるすべてのコンポーネントの設定に使用する値を指定します。次の操作を行います。
- 「ホスト名」のデフォルト値を受け入れます。
  - 「DNS ドメイン名」のデフォルト値を受け入れます。
  - 「ホスト IP アドレス」のデフォルト値を受け入れます。
  - 「管理者ユーザー ID」のデフォルト値を受け入れます。
  - 「管理者のパスワード」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。
  - 「パスワード再入力」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。
  - 「システムユーザー」のデフォルト値を受け入れます。
  - 「システムグループ」のデフォルト値を受け入れます。

---

注 - 「ホスト名」、「DNS ドメイン名」、および「ホスト IP アドレス」のデフォルト値は、インストール先のシステムに基づいています。

図 5-4 には、`evaluation.example.com` という名前のシステムのデフォルト値が示されています。「ホスト名」フィールドは、システム名 `evaluation` で、「DNS ドメイン名」フィールドは、`example.com` です。インストール先システムについても同様の値が表示されます。

---

「次へ」をクリックします。「Web サーバー: 管理 (1 / 2)」ページが表示されません。

## ▼ Web Server の設定値を入力するには

- 手順 1. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Web Server: デフォルトの Web Server インスタンス (2 / 2)」ページが表示されます。



図 5-5 Web Server: デフォルトの Web Server インスタンス (2 / 2)

2. 次の操作を行います。
- 「実行時ユーザー ID」テキストフィールドに、「**root**」と入力します。
  - 「実行時グループ」テキストフィールドに、「**other**」と入力します。
  - 「システムが再起動すると自動的に Web Server を起動します」を選択します。

「次へ」をクリックします。「Directory Server: 管理 (1 / 5)」ページが表示されます。

---

ヒント - Web Server に指定するユーザーとグループは、Web Server で実行されているコンポーネントに使用しているユーザーとグループと同じにする必要があります。

---

## ▼ Directory Server の設定値を入力するには

- 手順 1. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。

---

ヒント - 「管理者ユーザーパスワード」テキストフィールドと「ディレクトリマネージャパスワード」テキストフィールドには、アスタリスクが表示されます。これらのテキストフィールドの値は、「共有サーバー設定」ページで指定したデフォルトのパスワード、つまり password です。

---

「Directory Server: サーバー設定 (2 / 5)」ページが表示されます。



図 5-6 Directory Server: サーバー設定 (2 / 5)

2. 次の操作を行い、ディレクトリツリーのベースサフィックスを確立します。
  - 「サーバー識別子」テキストフィールドで、デフォルトの値が *evaluation\_host* の非修飾形式になっていることを確認します。たとえば、*evaluation.example.com* という名前のシステムにインストールする場合、デフォルトのサーバー識別子は *evaluation* になります。
  - 「サーバーポート」テキストフィールドで、デフォルト値の 389 を受け入れます。
  - 「サフィックス」テキストフィールドに、「**o=examplecorp**」と入力します。この値により、評価ソリューションのディレクトリツリーのベースサフィックスが指定されます。
  - 「管理ドメイン」テキストフィールドで、デフォルト値の *evaluation\_domain* を受け入れます。
  - 「システムユーザー」テキストフィールドで、デフォルト値の *root* を受け入れます。
  - 「システムグループ」テキストフィールドで、デフォルト値の *other* を受け入れます。

---

ヒント – サーバー識別子により、Directory Server コンソールのサーバーインスタンスが特定されます。

---

「次へ」をクリックします。「Directory Server: 設定 Directory Server (3 / 5)」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Directory Server: データの保存場所 (4 / 5)」ページが表示されます。
4. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Directory Server: データの読み込み (5 / 5)」ページが表示されます。
5. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。

---

ヒント – このページのデフォルトの選択 (「データの読み込み」チェックボックスの下に「サンプルデータ」ラジオボタン) により、サンプルデータがある LDAP データベースが読み込まれる設定になります。

---

「管理サーバー: サーバー設定 (1 / 2)」ページが表示されます。

## ▼ Administration Server の設定値を入力するには

- 手順
1. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「管理サーバー: 設定ディレクトリの設定 (2 / 2)」ページが表示されます。
  2. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Access Manager: 管理 (1 / 6)」ページが表示されます。



図 5-7 「Access Manager: 管理」 ページ

## ▼ Access Manager の設定値を入力するには

手順 1. 次の操作を行います。

- 「管理者ユーザーパスワード」および「パスワード再入力」テキストフィールドのデフォルト値を受け入れます。

---

ヒント - 「管理者ユーザーパスワード」にはアスタリスクが表示されます。このテキストフィールドの値は、デフォルトパスワードの password です。

---

- 「LDAP パスワード」および「パスワード再入力」テキストフィールドに、「**ldappassword**」と入力します。

---

ヒント - LDAP パスワードを、管理者パスワードと同一にすることはできません。

---

「次へ」をクリックします。「Access Manager: Web コンテナ (2 / 6)」ページが表示されます。

2. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。

「Access Manager: Sun Java System Web Server (3 / 6)」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Access Manager: Identity Server サービスを実行するための Web コンテナ (4 / 6)」ページが表示されます。
4. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Access Manager: Directory Server 情報 (5 / 6)」ページが表示されます。
5. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Access Manager: Directory Server 情報 (6 / 6)」ページが表示されます。
6. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Portal Server: Web コンテナ」ページが表示されます。

## ▼ Portal Server の設定値を入力するには

- 手順
1. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Portal Server: Sun Java System Web Server」ページが表示されます。
  2. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Portal Server Web コンテナ配備」ページが表示されます。
  3. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。

---

ヒント - 「サンプルポータルインストール」がデフォルトで選択されています。  
サンプルポータルをインストールすると、独自のポータルデスクトップを開発することなく使用できる、ポータルデスクトップが提供されます。

---

「インストールの準備が完了しています」ページが表示されます。

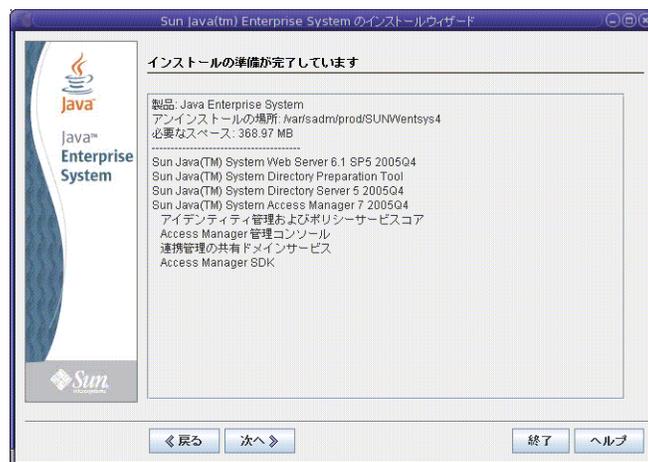


図 5-8 「インストールの準備が完了しています」 ページ

## ▼ インストールを完了するには

- 手順
1. インストールするコンポーネントのリストを確認します。リストは、[図 5-8](#) と一致している必要があります。
    - 入力内容を確認または変更する場合は、「戻る」をクリックします。任意のインストーラページに戻り、任意の値を変更できます。
    - インストールする準備が整ったら、「次へ」をクリックします。インストーラが共有コンポーネントをアップグレードします。このプロセスにはしばらく時間がかかることがあります。インストーラが共有コンポーネントのアップグレードを終了すると、「製品登録」ページが表示されます。
  2. 「製品登録」ページで、「インストール中に登録ウィンドウを開きます」の選択を解除し、「インストール」をクリックします。  
「インストール中」ページが表示されます。インストールプロセスには数分かかります。インストールが終了すると、「インストールが完了しました」ページが表示されます。
  3. 「サマリーの表示」をクリックし、すべてのコンポーネントが正しくインストールされたことを確認します。  
インストールプロセスは完了です。
  4. 「閉じる」をクリックして、インストーラを終了します。

---

ヒント – 評価が完了したら、コンポーネントをアンインストールできます。アンインストールの手順については、141 ページの「コンポーネントのアンインストール」を参照してください。

---

---

## インストールログファイルの確認

インストールの詳細を調べる場合は、インストールログファイルを確認します。ここでは、ログファイルを見つける方法を説明します。

### ▼ インストールログファイルを確認するには

手順 1. ログファイルのディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/install/logs
```

2. **ls** コマンドを実行してディレクトリの内容をリスト表示します。

```
ls
```

インストールしたコンポーネントのインストールログファイルのリストが表示されます。

3. 確認する必要があるインストールログファイルを開きます。

たとえば、Directory Server のインストールログファイルは、ファイル名に日付スタンプが含まれています。Directory\_Server\_install.B mmdd9999 のようになっています。

---

ヒント – 次のログファイルには、インストーラによって行われた依存性チェックについての情報が含まれています。

```
/var/sadm/install/log/installdependencies.txt
```

---

## 第 6 章

---

# コンポーネントの設定および確認

---

この章では、インストーラの実行後の手順について説明します。インストールと設定の計画で説明されているように、インストーラで設定したコンポーネントの起動と確認から始めて、続けてインストーラで設定されなかったコンポーネントの設定と起動を行います。

この章では、次の節で設定と確認の手順について説明します。

- 71 ページの「Directory Server のデフォルトインスタンスの起動および確認」
- 75 ページの「Access Manager および Portal Server のデフォルトインスタンスの確認」
- 78 ページの「通信サービス用のディレクトリの設定」
- 81 ページの「Messaging Server の設定」
- 89 ページの「Calendar Server インスタンスの設定」
- 94 ページの「Instant Messaging インスタンスの設定」
- 99 ページの「Communications Express インスタンスの設定」

設定と確認の手順の概要については、35 ページの「インストールと設定の計画の作成」を参照してください。設定ウィザードで入力する値の説明については、38 ページの「インストールと設定の計画の詳細」を参照してください。

---

## Directory Server のデフォルトインスタンスの起動および確認

Directory Server は、ログインとポータルサービス、メッセージングサービス、およびカレンダーサービス用の認証をサポートするディレクトリサービスを提供します。評価ソリューションの確認は、Directory Server のデフォルトインスタンスが起動および管理可能であることを確認することから始まります。

ここでは、次のことを学習します。

- Administration Server を起動および停止する方法。
- Directory Server を起動および停止する方法。
- Administration Server コンソールを使用して LDAP ディレクトリの内容を表示し、Directory Server が正しく設定されていることを確認する方法。

## ▼ Administration Server を起動するには

Directory Server のデフォルトインスタンスを起動する前に、Administration Server を起動します。Administration Server は、Directory Server のための管理ツールです。

- 手順 1. サーバルートのディレクトリに移動します。

```
cd /var/opt/mps/serverroot
```

2. 次のコマンドを実行して、**Administration Server** を起動します。

```
./start-admin
```

Administration Server が起動し、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
startup:server started successfully
```

## ▼ Directory Server のデフォルトインスタンスを起動するには

Administration Server を起動した後、Directory Server のデフォルトインスタンスを起動します。

- 手順 1. **Directory Server** のデフォルトインスタンスのディレクトリに移動します。ディレクトリ名にはホストシステムの非修飾名が含まれます。

```
cd /var/opt/mps/serverroot/slapd-unqualified_evaluation_host
```

2. 次のコマンドを実行して、**Directory Server** を起動します。

```
./start-slapd
```

Directory Server が起動します。メッセージは表示されません。

## ▼ LDAP ディレクトリの設定を確認するには

Directory Server を起動した後、サーバーコンソールを起動して、LDAP ディレクトリの設定を確認します。

手順 1. **serverroot** ディレクトリに移動します。

```
cd /var/opt/mps/serverroot
```

2. 次のコマンドを実行して、サーバーコンソールを起動します。

```
./startconsole &
```

「Sun Java System サーバーコンソールログイン」ダイアログボックスが表示されます。

3. 管理者の ID (**admin**) およびパスワード (**password**) を入力して、「了解」をクリックします。

「Server Console」が表示され、Administration Server ドメインのサーバーおよびアプリケーションに関する情報が表示されます。図 6-1 は、example.com ドメインに関する情報を示しています。実際のドメインに関しても、同様の情報が表示されます。



図 6-1 Server Console の「サーバーとアプリケーション」タブ

4. 「サーバーとアプリケーション」タブ上のノードを展開し、**Directory Server** のデフォルトインスタンスを表すノードを見つけます。

a. 最上位のノードは、デフォルトの **Administration Server** ドメインを表します。図 6-1 では、最上位のノードは **example.com** と示されているノードです。実際のコンソールウィンドウでは、最上位のノードには *evaluation\_domain* が示されます。

- b. 次のレベルには、**Administration Server** ドメイン内のシステムを表すノードがあります。
- 図 6-1 では、example.com ドメインには evaluation.example.com という名前のシステムが 1 つ含まれています。実際のコンソールウィンドウでは、*evaluation\_host* が示されます。
- c. 次のレベルは「**Server Group**」と呼ばれるノードです。
- このノードには、*evaluation\_host* で稼働しているコンポーネントインスタンスがグループ化されます。図 6-1 では、evaluation.example.com で稼働しているコンポーネントインスタンスが Server Group ノードでグループ化されています。
- d. 次のレベルには、**Server Group** 内の個々のコンポーネントインスタンスを表すノードがあります。
- これらのノードのいずれかが、Directory Server のデフォルトインスタンスを表します。図 6-1 では、そのノードは Directory Server (evaluation.example.com) と示されているノードです。実際のコンソールウィンドウでは、そのノードは Directory Server (*evaluation\_host*) と示されます。
5. **Directory Server** のデフォルトインスタンスを表すノードをダブルクリックします。
- 「Sun Java System Directory Server」ウィンドウが表示されます。
6. 「ディレクトリ」タブをクリックします。
- LDAP ディレクトリツリーが表示されます。

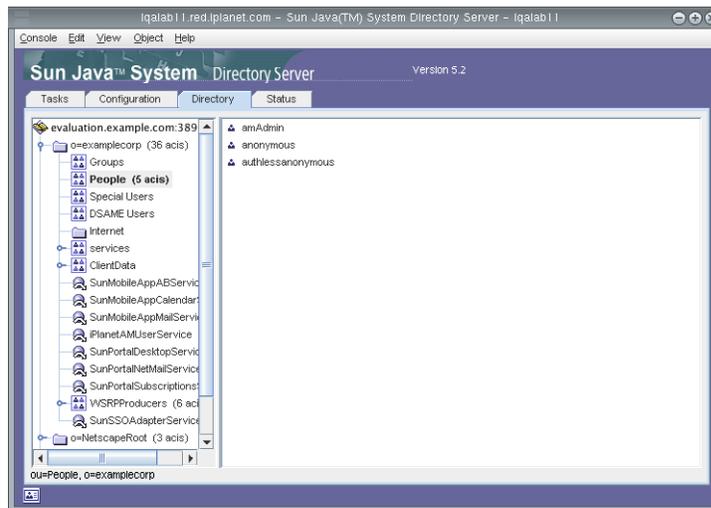


図 6-2 デフォルトの LDAP ディレクトリツリー

7. インストーラによって設定された **LDAP** ベースサフィックスを確認します。  
実際の LDAP ベースサフィックスは `o=examplecorp` になります。図 6-2 と同様の画面が表示されます。
8. インストーラによって設定されたサンプルの **LDAP** ディレクトリエントリを見つけます。
  - a. ベースサフィックスのノード (**o=examplecorp**) を展開します。
  - b. 「**People**」コンテナのノードをクリックします。  
右区画に「**People**」コンテナの内容が表示されます。図 6-2 は、`evaluation.example.com` 上の Directory Server のデフォルトインスタンスの「**People**」コンテナを示しています。実際の Directory Server インスタンスの場合も同様の画面が表示されます。
9. 「**People**」コンテナに、**amAdmin**、**anonymous**、および **authlessanonymous** のエントリが含まれていることを確認します。  
インストール中に要求したサンプルデータが Java Enterprise System インストーラによって LDAP ディレクトリに読み込まれたことが、これらのエントリによって確認されます。
10. サーバーコンソールを稼働したままにしておきます。

---

## Access Manager および Portal Server のデフォルトインスタンスの確認

Directory Server を起動した後に、Web Server のデフォルトインスタンスを再起動します。Web Server を再起動すると、Access Manager および Portal Server も起動します。

ここでは、次のことを学習します。

- Web Server を再起動する方法。
- Access Manager 管理コンソールを起動および停止する方法。
- Access Manager 管理コンソールを使用して、Access Manager が LDAP ディレクトリにアクセスできることを確認する方法。
- サンプルポータルデスクトップを開く方法。

## ▼ Web Server のデフォルトインスタンスを再起動するには

Web Server のデフォルトインスタンスを再起動すると、Web Server の Web コンテナで稼働する 2 つのコンポーネント、Access Manager および Portal Server が起動します。

- 手順 1. **Web Server** のデフォルトインスタンスのディレクトリに移動します。ディレクトリ名には、**Web Server** をインストールしたシステムの完全修飾名が含まれます。

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-evaluation_host
```

2. 次のコマンドを実行して、**Web Server** を再起動します。

```
./stop; ./start
```

Web Server により、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
startup: server started successfully
```

## ▼ Access Manager 管理コンソールにログインし、Access Manager を確認するには

Access Manager 管理コンソールにログインすることで、Access Manager が稼働していること、および Directory Server インスタンスと協働するように Access Manager が正常に設定されたことが確認されます。

- 手順 1. **Web** ブラウザで、次の **URL** を開きます。

```
http://evaluation_host/amconsole/index.html
```

「ログイン」ページが表示されます。

2. 管理ユーザーの **ID (amadmin)** とパスワード (**password**) を入力します。「ログイン」をクリックします。

コンソールに、デフォルトの Access Manager ドメインに関する情報が表示されます。

3. **Access Manager** が正しく設定されていることを確認するには、**Access Manager** ドメイン名を確認します。

Access Manager ドメイン名は、「アイデンティティ管理」タブ直下の左区画に表示されます。図 6-3 には、examplecorp が表示されています。実際の Access Manager コンソールにも同様の画面が表示されます。

ヒント – examplecorp は、LDAP ディレクトリツリーで設定したベースサフィックスです。これが Access Manager コンソールに表示されていると、Access Manager が Directory Server のデフォルトインスタンスと通信していることが確認されます。

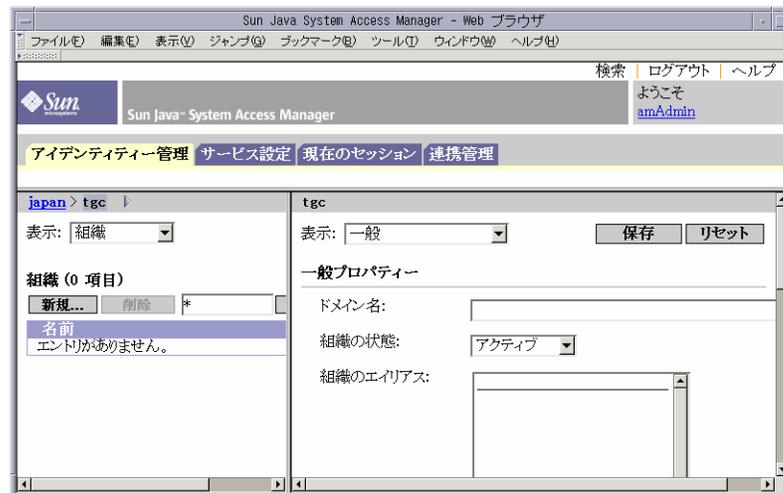


図 6-3 Access Manager 管理コンソール

4. 管理コンソールからログアウトします。ページの右上隅にある「ログアウト」をクリックします。

## ▼ サンプルポータルデスクトップを表示し、Portal Server のデフォルトインスタンスを確認するには

第 5 章のインストール手順により、サンプルポータルデスクトップが作成されます。この節では、サンプルポータルデスクトップを開いて、Portal Server が稼働していることを確認します。

- 手順 1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

`http://evaluation_host/portal/dt`

Portal Server のサンプルデスクトップが表示されます。図 6-4 はサンプルデスクトップを示しています。サンプルデスクトップを開くことで、Portal Server のデフォルトインスタンスが稼働していることが確認されます。



図 6-4 サンプルポータルデスクトップ

2. ポータルデスクトップをブラウザで開いたままにします。

## 通信サービス用のディレクトリの設定

第 5 章のインストール手順により、デフォルトの LDAP スキーマでディレクトリが作成されます。Messaging Server および Calendar Server のインスタンスを設定する前に、Java ES の通信サービス用のディレクトリを設定する必要があります。この設定手順により、共有ユーザーエントリをサポートする LDAP 属性が追加されます。この設定を完了したら、ディレクトリのユーザーアカウントは、Access Manager で認証を受けて、Java ES コンポーネントによって提供される任意のサービスにログインできます。

ここでは、次のことを学習します。

- Directory Server Preparation Tool を使用して通信サービス用にディレクトリツリーを設定する方法。
- 管理コンソールを使用してディレクトリツリーへの変更を確認する方法。

## ▼ 通信サービス用のディレクトリツリーを設定するには

この手順では、Directory Server Preparation Tool (comm\_dssetup.pl と呼ばれる Perl スクリプト) を実行し、Java ES の通信サービスで使用するために評価ディレクトリを設定します。入力値の要約については、41 ページの「[Directory Server Preparation Tool の詳細](#)」を参照してください。

---

ヒント – このスクリプトにより、一連のプロンプトが表示されます。ほとんどのプロンプトには、Enter キーを押してデフォルト値を受け入れることで応答します。デフォルト値は、Directory Server のデフォルトインスタンスを示すものです。

---

手順 1. **Preparation Tool** のディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWcomds/lib
```

2. 次のコマンドを実行して、**Preparation Tool** を解凍します。

```
unzip dssetup.zip
```

3. 解凍した **Preparation Tool** のディレクトリに移動します。

```
cd dssetup
```

4. 次のコマンドを実行して、**Preparation Tool** を起動します。

```
perl comm_dssetup.pl
```

Preparation Tool により一連のメッセージが表示され、その後、次のプロンプトが表示されます。Do You Want To Continue? [Y].

5. Enter キーを押してデフォルト値を受け入れます。

Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Enter the Full Path to the Directory Where The Sun ONE Directory Server was Installed.

6. Enter キーを押してデフォルト値の「`/var/opt/mps/serverroot`」を受け入れます。

Preparation Tool により Directory Server のインスタンスの番号表示されたリストが表示され、次のプロンプトが表示されます。Which Instance Do You Want? [1].

7. **Java Enterprise System** インストーラによって作成された **Directory Server** のデフォルトインスタンスを選択します。評価ソリューションの場合、通常、`evaluation_host` 上にあるインスタンスは 1 つだけです。

- このプロンプトのデフォルト値「1」に正しいインスタンス、つまり、インスタンス名が `evaluation_host` で終わるインスタンスが指定されている場合は、Enter キーを押してデフォルト値を受け入れます。

- 複数の Directory Server インスタンスがある場合は、Directory Server のデフォルトインスタンスの数を入力し、Enter キーを押します。

Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Please Enter The Directory Manager DN [cn=Directory Manager].

8. Enter キーを押してデフォルト値の「**cn=Directory Manager**」を受け入れます。  
Preparation Tool により、Directory Manager のパスワードを要求するプロンプトが表示されます。
9. 「**password**」と入力し、Enter キーを押します。  
Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Will This Directory Server Be Used For Users/Groups? [Yes].
10. Enter キーを押してデフォルト値を受け入れます。  
Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Please Enter The Users/Groups Base Suffix [o=examplecorp].
11. デフォルト値が **examplecorp** になっていることを確認します。**examplecorp** は、ディレクトリツリー用に設定したベースサフィックスです。Enter キーを押してデフォルト値を受け入れます。  
Preparation Tool により Sun ONE LDAP スキーマのリストが表示され、次のプロンプトが表示されます。Please Enter The Schema Type (1, 1.5, 2) [2].
12. デフォルト値が「**2**」であることを確認し、Enter キーを押します。  
Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Do You Want To Update The Schema Files? [Yes].
13. Enter キーを押してデフォルト値の「**Yes**」を受け入れます。  
Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Do You Want To Configure New Indexes? [Yes].
14. Enter キーを押してデフォルト値の「**Yes**」を受け入れます。  
Preparation Tool により次のプロンプトが表示されます。Do You Want To Reindex The New Indexes Now? [yes].
15. Enter キーを押してデフォルト値の「**yes**」を受け入れます。  
Preparation Tool は入力した値の要約を表示し、次のプロンプトを表示します。Do You Want To Continue? [Y].
16. 入力した値を確認します。Enter キーを押してデフォルト値の「**y**」を受け入れます。  
Preparation Tool は「generating files」で始まる、一連の情報メッセージを表示します。これにはしばらく時間がかかることがあります。  
  
Preparation Tool によりスクリプトファイルが生成され、次のプロンプトが表示されます。Ready to execute the script now. Do you want to continue? [Y].

17. **Enter** キーを押してデフォルト値の「Y」を受け入れます。

Preparation Tool は生成されたスクリプトを実行し、Directory Server インスタンスを設定します。これにはしばらく時間がかかることがあります。

スクリプトは、次のメッセージで終了する、一連の長い情報メッセージを表示します。

```
Successful Completion
```

Java ES の通信サービスで使用するディレクトリツリーの設定はこれで完了です。

---

## Messaging Server の設定

ここでは、次のことを学習します。

- Messaging Server 設定ウィザードを使用して、Messaging Server インスタンスを作成および設定する方法。
- Messaging Server インスタンスを起動および停止する方法。
- Messaging Server 設定ウィザードで行われたディレクトリツリーの設定を確認する方法。

### ▼ Messaging Server インスタンスを作成および設定するには

この手順では、Messaging Server 設定ウィザードを実行して、Messaging Server インスタンスを作成および設定します。入力値の要約については、[42 ページ](#)の「[Messaging Server 設定ウィザードの詳細](#)」を参照してください。

手順 1. **Messaging Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
```

2. 次のコマンドを実行して、設定ウィザードを起動します。

```
./configure
```

設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックします。

「完全指定ホスト名」ページが表示されます。

4. デフォルト値が *evaluation\_host* になっていることを確認します。

「次へ」をクリックします。「設定およびデータファイルの格納先ディレクトリを選択」ページが表示されます。

5. 「次へ」をクリックしてデフォルト値の `/var/opt/SUNWmsgsr` を受け入れ  
ます。  
「新規ディレクトリを作成しますか？」ダイアログボックスが表示されま  
す。
6. 「ディレクトリを作成」をクリックします。

---

ヒント - Java ES を以前インストールしてアンインストールした場合は、  
`/var/opt/SUNWmsgsr` が空ではない、という異なるダイアログボックスが表示  
されます。「受け入れる」をクリックして、既存のインスタンスのディレクトリを  
上書きします。

---

「設定するコンポーネントを選択」ページが表示されます。

7. 「次へ」をクリックして、**Message Transfer Agent**、**Message Store**、および  
**Messenger Express** が選択されているデフォルト値を受け入れます。  
「Messaging Server のユーザーとグループ」ページが表示されます。
8. 次の操作を行います。
  - 「ユーザー名の入力」テキストフィールドのデフォルト値が `mailsrv` である  
ことを確認します。
  - 「グループの入力」テキストフィールドのデフォルト値が `mail` であることを  
確認します。

「次へ」をクリックします。「設定ディレクトリサーバーパネル」ページが表示さ  
れます。



図 6-5 設定ディレクトリサーバーのページ

9. 次の操作を行います。

- 「設定サーバー LDAP URL」テキストフィールドのデフォルト値が `ldap://evaluation_host :389` であることを確認します。
- 「次でバインド」テキストフィールドのデフォルト値が `cn=Directory Manager` であることを確認します。Directory と Manager の間にはスペースがあります。
- 「パスワード」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。

---

ヒント- これらの値を入力することにより、Directory Server のデフォルトインスタンスおよび管理者アカウントが指定されます。

---

「次へ」をクリックします。「設定ディレクトリサーバーパネル」ページが表示されます。

#### 10. 次のデフォルト値を確認します。

- 「ユーザー/グループサーバー LDAP URL」テキストフィールドのデフォルト値が `ldap://evaluation_host :389` であることを確認します。
- 「次でバインド」テキストフィールドのデフォルト値が `cn=Directory Manager` であることを確認します。Directory と Manager の間にはスペースがあります。
- 「パスワード」テキストフィールドのデフォルト値が `password` であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「ポストマスターのメールアドレス」ページが表示されます。



図 6-6 「ポストマスターのメールアドレス」ページ

#### 11. 次の操作を行います。

- 「メールアドレスを入力」テキストフィールドに、「**admin@examplecorp.com**」と入力します。

「次へ」をクリックします。「すべての管理アカウントのパスワード」ページが表示されます。

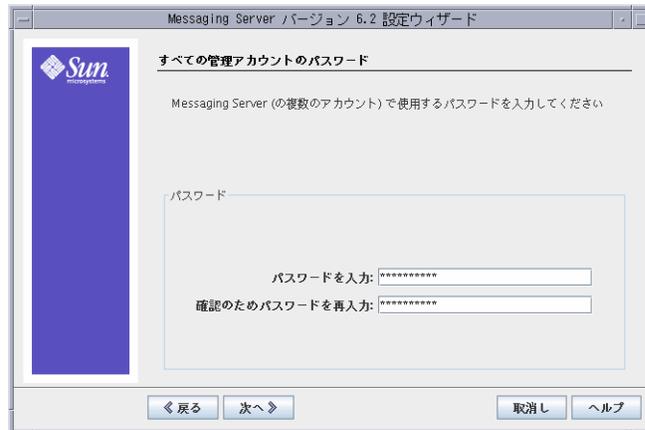


図 6-7 「すべての管理アカウントのパスワード」ページ

12. 次の値を入力して、**Messaging Server** 用の管理パスワードを設定します。

- 「パスワードを入力」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。
- 「確認のためパスワードを再入力」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。

「次へ」をクリックします。「デフォルトの電子メールドメイン」ページが表示されます。



図 6-8 「デフォルトの電子メールアドレスメイン」 ページ

13. 次の操作を行います。

- 「電子メールアドレスメインを入力」テキストフィールドに、「**examplecorp.com**」と入力します。

「次へ」をクリックします。「デフォルト電子メールアドレスメインの組織 DN」ページが表示されます。



図 6-9 「デフォルト電子メールアドレスメインの組織 DN」 ページ

14. デフォルトの組織 DN が **o=examplecorp.com, o=examplecorp** であることを確認します。

---

ヒント – Messaging Server 設定ウィザードにより、「組織 DN を入力」テキストフィールドで指定した名前が付いた新しい組織が LDAP ツリー内に作成されます。この組織には Java ES ユーザーを追加します。

---

「次へ」をクリックします。「設定する準備が整いました」ページが表示されず。

15. 情報を確認します。「今すぐ設定」をクリックします。  
「使用中のポート」ダイアログボックスが表示されます。

---

ヒント – この手順のあとの方で、Messaging Server インスタンスのポートを指定します。

---

16. 「了解」をクリックします。  
設定プロセスが続行します。設定プロセスが完了すると、「シーケンスを完了」ページが表示されます。

17. 「次へ」をクリックします。  
「インストールサマリ」ページが表示されます。

18. インストールサマリを確認し、「閉じる」をクリックします。

19. **Messaging Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
```

20. 次のコマンドを実行して、**Messaging Server** との通信に使用するポートを指定します。

```
./configutil -o service.http.port -v 88
./configutil -o service.http.sslport -v 448
```

21. 次のコマンドを実行して、**Messaging Server** を起動します。

```
./start-msg
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
starting job-controller server
```

Messaging Server のインスタンスの作成および起動はこれで完了です。

## ▼ Messaging Server の設定によってディレクトリツリーが変更されたことを確認するには

この手順では、Sun Java System サーバーコンソールを使用して、Messaging Server によって `o=examplecorp.com,o=examplecorp` の組織がディレクトリツリーに追加されたことを確認します。

- 手順
1. サーバーコンソールの「**Directory Server**」ウィンドウに戻ります。
  2. 「表示」メニューで、「再表示」を選択します。  
ディレクトリツリーの画面が更新されます。

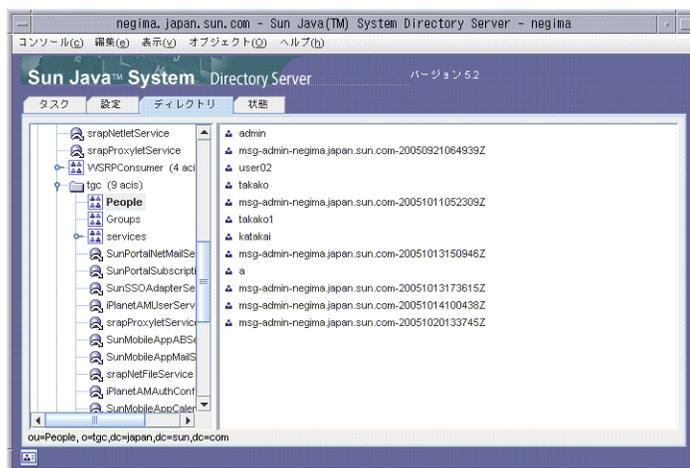


図 6-10 Messaging Server の設定によって変更されたスキーマ 2 のディレクトリツリー

3. 変更されたディレクトリツリーを確認します。  
`examplecorp.com` の新しいノードがあることを確認します。図 6-10 と同様の画面が表示されます。`examplecorp.com` のノードは、Messaging Server 設定ツールによって作成された LDAP 組織を表します。組織の完全な LDAP DN は `o=examplecorp.com,o=examplecorp` です。

---

ヒント – 新しい LDAP 組織は、シングルサインオンおよびプロキシ認証をサポートします。Java ES で使用する LDAP エントリを作成する場合、それらのエントリをこの LDAP 組織に追加します。

---

4. `examplecorp.com` のノードをクリックします。  
右区画に、組織の内容が表示されます。

5. 組織のオブジェクトクラスが **iplanet-am-managed-people-container** であることを確認します。次の操作を行います。
  - a. 右区画で、「**People**」コンテナを右クリックし、次にメニューから「汎用エディタで編集」を選択します。  
汎用エディタが表示されます。



図 6-11 「汎用エディタ」

- b. 汎用エディタで、「オブジェクトクラス」テキストフィールドの値が、**iplanet-am-managed-people-container** であることを確認します。  
これにより、ディレクトリツリーに対して Java Enterprise System のメッセージングサービスを正常に設定したことが確認されます。
  - c. 「了解」をクリックして、汎用エディタを閉じます。
6. コンソールを終了します。

## ▼ Messaging Server インスタンスを確認するには

この手順では、管理者アカウントとデフォルトの Web インタフェースを使用して、Messaging Server インスタンスにログインする方法を示します。

- 手順 1. **Web** ブラウザで、次の **URL** を開きます。

`http://evaluation_host:88`

Messenger Express のログインページが表示されます。

2. 次の値を入力します。

- ユーザー ID: **admin**
- パスワード: **password**

「ログイン」をクリックします。Messenger Express のメインウィンドウが表示されます。図 6-12 と同様の画面が表示されます。これにより、Messaging Server インスタンスが設定され、稼働していることが確認されます。

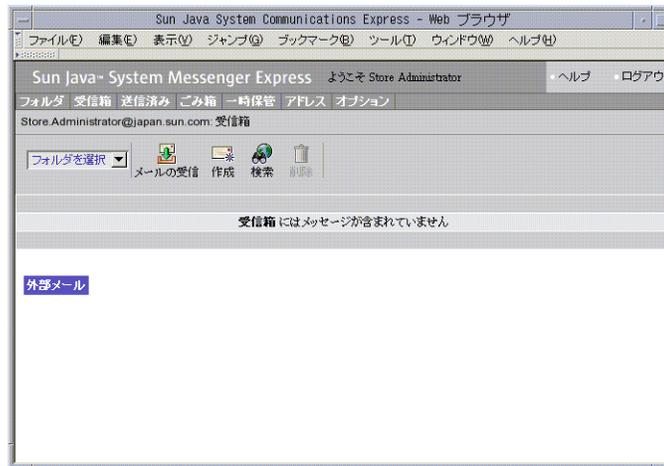


図 6-12 Messenger Express のメインウィンドウ

3. **Messenger Express** のメインウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。

これにより、Messaging Server インスタンスが正常に設定および起動されたことが確認されます。

---

## Calendar Server インスタンスの設定

ここでは、次のことを学習します。

- Calendar Server 設定ウィザードを使用して、Calendar Server インスタンスを作成する方法。
- Calendar Server インスタンスを起動および停止する方法。

## ▼ Calendar Server インスタンスを作成および設定するには

この手順では、Calendar Server 設定ウィザードを実行して、Calendar Server インスタンスを作成および設定します。入力値の要約については、44 ページの「Calendar Server 設定ウィザードの詳細」を参照してください。

手順 1. **Calendar Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
```

2. 次のコマンドを実行して、設定ウィザードを起動します。

```
./csconfigurator.sh
```

設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックして続行します。

「管理、ユーザー設定、および認証」ページが表示されます。

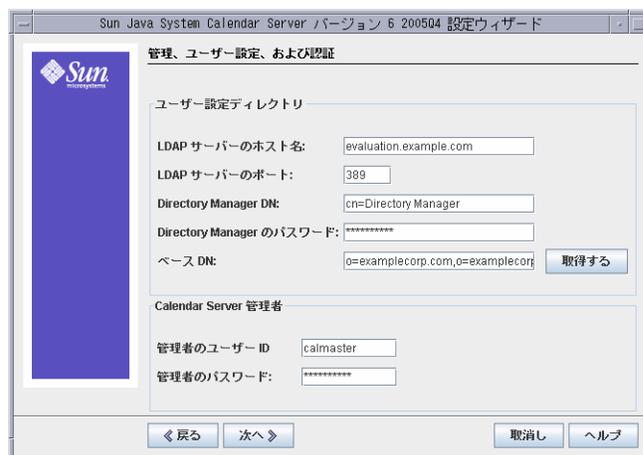


図 6-13 「管理、ユーザー設定、および認証」ページ

4. 次の操作を行います。

- 「LDAP サーバーのホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
- 「LDAP サーバーのポート」テキストフィールドのデフォルト値が 389 であることを確認します。
- 「Directory Manager DN」テキストフィールドで、デフォルト値が **cn=Directory Manager** であることを確認します。Directory と Manager の間にはスペースがあります。

- 「Directory Manager のパスワード」テキストフィールドに、「password」と入力します。
- 「ベース DN」テキストフィールドに、「o=examplecorp.com,o=examplecorp」と入力します。

---

ヒント - Calendar Server のベース DN により、Messaging Server 設定ウィザードで作成した LDAP 組織 (o=examplecorp.com,o=examplecorp) が指定されます。

---

- 「管理者のユーザー ID」テキストフィールドのデフォルト値が calmaster であることを確認します。
- 「管理者のパスワード」テキストフィールドに、「password」と入力します。

「次へ」をクリックします。ウィザードにより、Directory Server のデフォルトインスタンスへの接続が確認されます。「質問」ダイアログボックスが表示されます。

5. 「作成する」をクリックして、calmaster ユーザーを作成します。「メールと電子メールアラーム」ページが表示されます。



図 6-14 「メールと電子メールアラーム」ページ

6. 次の操作を行います。
  - 「電子メールアラーム」に、デフォルトで「有効」が選択されていることを確認します。
  - 「管理者のメールアドレス」テキストフィールドに、「calmaster@examplecorp.com」と入力します。

- 「SMTP ホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「SMTP ホストへの接続」ダイアログボックスが表示される場合があります。

7. 「SMTP ホストへの接続」ダイアログボックスで、「承認」をクリックします。「ランタイム設定」ページが表示されます。



図 6-15 「ランタイム設定」ページ

8. 次の操作を行います。

- 「サービスポート」テキストフィールドに、「89」と入力します。
- 「最大セッション」テキストフィールドのデフォルト値が 5000 であることを確認します。
- 「最大スレッド」テキストフィールドのデフォルト値が 20 であることを確認します。
- 「サーバープロセスの数」テキストフィールドのデフォルト値が 1 であることを確認します。
- 「ランタイムユーザー ID」テキストフィールドのデフォルト値が *icsuser* であることを確認します。
- 「ランタイムグループ ID」テキストフィールドのデフォルト値が *icsgroup* であることを確認します。
- 「設定が成功したら起動する」が選択されていることを確認します。
- 「システムの起動時に起動する」が選択されていることを確認します。

「次へ」をクリックします。「新しいユーザー ID を作成しますか？」ダイアログボックスが表示されます。

9. 「ユーザー ID を作成」をクリックして **icsuser** アカウントを作成します。  
「設定ファイルおよびデータファイルの保存先ディレクトリ」ページが表示されま  
す。
10. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「新規ディレクトリを作成しますか？」ダイアログボックスが表示されます。

---

ヒント - Java Enterprise System を以前インストールしてアンインストールした場  
合は、`/var/opt/SUNWmsgsr` が空ではない、という異なるメッセージが表示さ  
れます。既存のディレクトリを上書きするためにクリックします。ディレクトリご  
とに、これを実行します。

---

11. 「ディレクトリを作成」をクリックします。新しいディレクトリごとに、これを実  
行します。  
「アーカイブとホットバックアップの設定」ページが表示されます。
12. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「新規ディレクトリを作成しますか？」ダイアログボックスが表示されます。
13. 「ディレクトリを作成」をクリックします。新しいディレクトリごとに、これを実  
行します。  
「設定する準備が整いました」ページが表示されます。
14. 「今すぐ設定」をクリックします。  
設定が完了すると、「設定サマリ」ページが表示されます。
15. 詳細を確認し、「閉じる」をクリックします。

---

ヒント - 「ランタイム設定」ページで、「設定が成功したら起動する」オプション  
を選択しました。ここで、Calendar Server が自動的に起動します。

---

## ▼ Calendar Server インスタンスを確認するには

この手順では、管理者アカウントとデフォルトの Web インタフェースを使用して、  
Calendar Server インスタンスを確認する方法を示します。

- 手順 1. Web ブラウザで、次の URL を開きます。

`http://evaluation_host:89`

Calendar Express の「ログイン」ページが表示されます。

2. 次の値を入力します。

- ユーザー ID: **calmaster**
- パスワード: **password**

「ログイン」をクリックします。Calendar Express のメインウィンドウが表示されます。図 6-16 と同様の画面が表示されます。これにより、Calendar Server インスタンスが正しく設定され、稼働していることが確認されます。

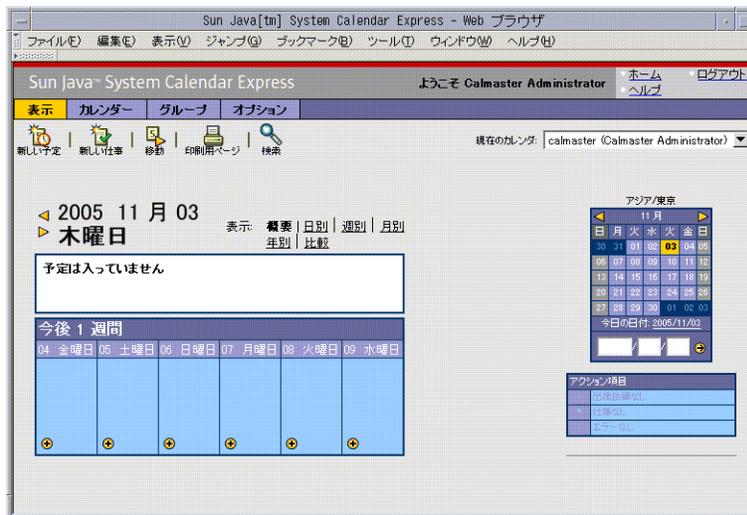


図 6-16 Calendar Express のメインウィンドウ

3. メインウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。これにより、Calendar Server インスタンスが正常に設定および起動されたことが確認されます。

## Instant Messaging インスタンスの設定

ここでは、次のことを学習します。

- Instant Messaging 設定ウィザードを使用して、Instant Messaging インスタンスを作成する方法。
- Instant Messaging インスタンスを起動する方法。

## ▼ Instant Messaging インスタンスを作成および設定するには

この手順では、Instant Messaging 設定ウィザードを実行して、Instant Messaging インスタンスを作成および設定します。入力値の要約については、45 ページの「Instant Messaging 設定ウィザードの詳細」を参照してください。

手順 1. **Instant Messaging** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWiim
```

2. 次のコマンドを実行して、設定ウィザードを起動します。

```
./configure
```

設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックします。

「ソフトウェア要件」ページが表示されます。

4. 「次へ」をクリックします。

「コンポーネントの選択」ページが表示されます。

5. 3 つのコンポーネントがすべて選択されていることを確認します。「次へ」をクリックしてデフォルトの選択内容を受け入れます。

「ネットワーク接続」ページが表示されます。

6. デフォルト値で評価システムが特定されることを確認します。

- 「ホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
- 「DNS ドメイン名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_domain* であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「IM サーバー/Identity Server オプション」ページが表示されます。

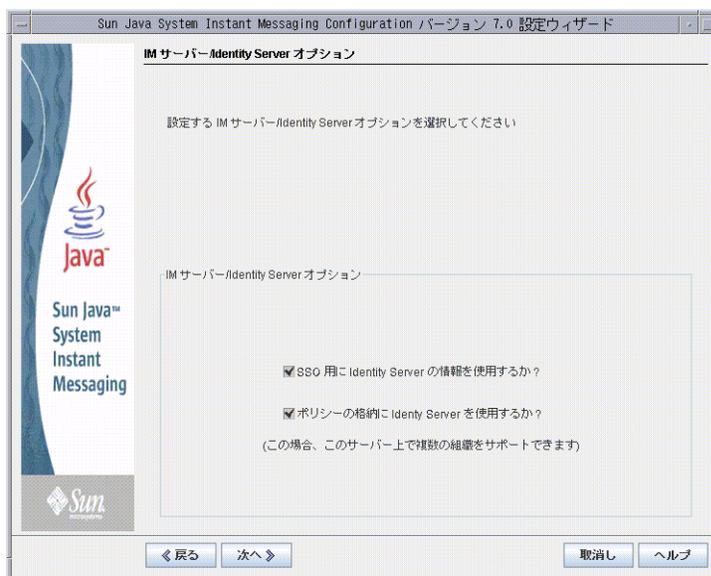


図 6-17 「IM サーバー/Identity Server オプション」 ページ

7. 「シングルサインオン (SSO) とポリシーエージェント」 オプションを選択します。  
「次へ」 をクリックします。「Instant Messaging Server の実行時ファイルディレクトリ」 ページが表示されます。
8. 「次へ」 をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「ディレクトリを作成」 ダイアログボックスが表示されます。
9. 「ディレクトリを作成」 をクリックします。  
「Instant Messaging Server の設定」 ページが表示されます。

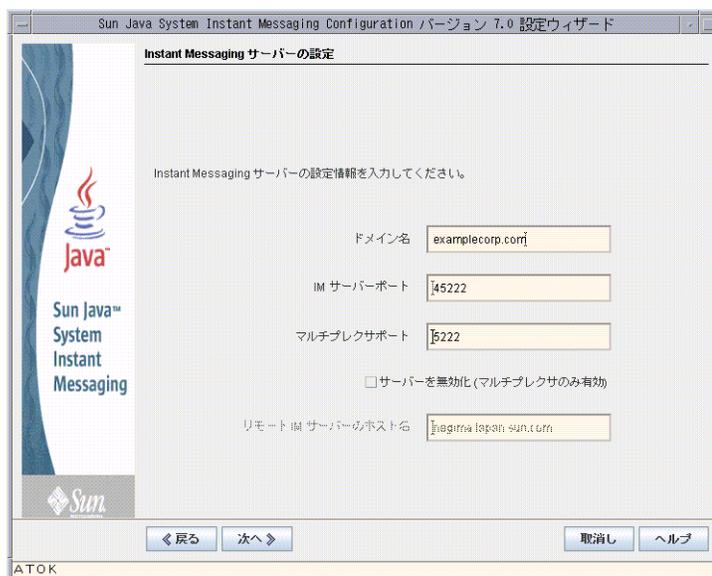


図 6-18 「Instant Messaging Server の設定」 ページ

10. 次の操作を行います。

- 「ドメイン名」テキストフィールドに、「**examplecorp.com**」と入力します。
- 「LDAP サーバーのポート」テキストフィールドのデフォルト値が 389 であることを確認します。
- 「マルチプレクサポート」テキストフィールドのデフォルト値が **5222** であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「Instant Messaging サーバーの LDAP 設定」ページが表示されます。

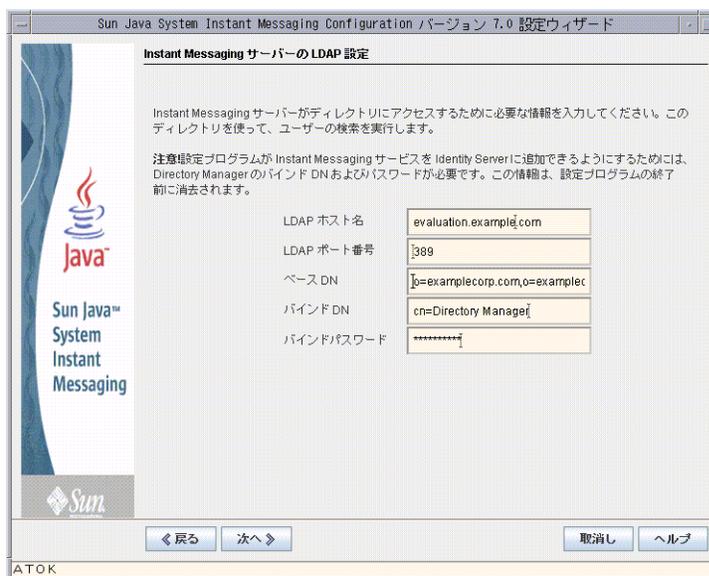


図 6-19 「Instant Messaging サーバーの LDAP 設定」 ページ

11. 次の操作を行います。

- 「LDAP ホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
- 「LDAP ポート番号」テキストフィールドのデフォルト値が 389 であることを確認します。
- 「ベース DN」テキストフィールドに、「**o=examplecorp.com,o=examplecorp**」と入力します。
- 「バインド DN」テキストフィールドに、「**cn=Directory Manager**」と入力します。Directory と Manager の間にはスペースを入れる必要があります。
- 「パスワード」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。

「次へ」をクリックします。ウィザードにより、Directory Server のデフォルトインスタンスへの接続およびベース DN の存在が確認されます。「SMTP サービス設定」ページが表示されます。

12. 「SMTP サーバー」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* になっていることを確認します。

「次へ」をクリックします。「SMTP ホストへの接続」ダイアログボックスが表示される場合があります。

13. 「SMTP ホストへの接続」ダイアログボックスで、「了解」をクリックし、「次へ」をクリックして続行します。

「Instant Messaging Servicesのコードベースの選択」ページが表示されます。

14. 「コードベース」テキストフィールドのデフォルト値が `http://evaluation_host:80/im` であることを確認します。  
「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。「アイデンティティオプションの選択」ページが表示されます。
15. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます。  
「Instant Messaging Services の起動」ページが表示されます。
16. 両方のサービスが選択されていることを確認します。  
「次へ」をクリックします。設定プロセスが開始されます。設定プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。設定が完了すると、「設定サマリ」ページが表示されます。
17. 詳細を確認し、「閉じる」をクリックします。
18. **Web Server** のデフォルトインスタンスのディレクトリに移動します。ディレクトリ名には、**Web Server** をインストールしたシステムの完全修飾名が含まれます。

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-evaluation_host
```

19. 次のコマンドを実行して、**Web Server** を再起動します。

```
./stop; ./start
```

Web Server により、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
startup: server started successfully
```

Instant Messaging インスタンスの作成はこれで完了です。

---

ヒント - LDAP ディレクトリツリーの設定が完了したら、Instant Messaging を使用します。詳細については、118 ページの「テスト用のエンドユーザーアカウントを確認するには」を参照してください。

---

## Communications Express インスタンス の設定

ここでは、次のことを学習します。

- Communications Express 設定ウィザードを使用して Communications Express インスタンスを作成する方法。
- Communications Express インスタンスを起動する方法。

## ▼ Communications Express インスタンスを設定するには

この手順では、Communications Express 設定ウィザードを実行して、Communications Express インスタンスを作成および設定します。入力値の要約については、47 ページの「Communications Express 設定ウィザードの詳細」を参照してください。

手順 1. **Communications Express** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWuwc/sbin
```

2. 次のコマンドを実行して、設定ウィザードを起動します。

```
./config-uwc
```

設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックします。

「設定およびデータファイルの格納先ディレクトリを選択」ページが表示されず。

4. 「次へ」をクリックしてデフォルト値の `/var/opt/SUNWuwc` を受け入れます。

「新規ディレクトリを作成しますか？」ダイアログボックスが表示されます。

5. 「ディレクトリを作成」をクリックします。

---

ヒント - Java ES を以前インストールしてアンインストールした場合は、`/var/opt/SUNWmsgsr` が空ではない、という異なるダイアログボックスが表示されます。「受け入れる」をクリックして、既存のディレクトリを上書きします。

---

「インストールするコンポーネントを選択」ページが表示されます。

6. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます（「メールコンポーネント」と「カレンダーコンポーネント」が両方とも選択されている）。

「ネットワーク接続」ページが表示されます。

7. 次のデフォルト値を確認します。

- 「ホスト名」テキストフィールドで、デフォルトの値が `evaluation_host` の非修飾形式になっていることを確認します。たとえば、`evaluation.example.com` という名前のシステムにインストールする場合、デフォルトのホスト名は `evaluation` です。
- 「DNS ドメイン名」テキストフィールドのデフォルト値が `evaluation_domain` であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「Web コンテナの選択」ページが表示されます。

8. 「次へ」をクリックしてデフォルトの値を受け入れます (**Web Server** が選択されている)。

「次へ」をクリックします。「Web Server の設定の詳細」ページが表示されま

9. 次のデフォルト値を確認します。

- 「サーバールートディレクトリ」テキストフィールドのデフォルト値が /opt/SUNWwbsvr であることを確認します。
- 「サーバーインスタンスの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
- 「仮想サーバーの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *https-evaluation\_host* であることを確認します。
- 「HTTP ポート」テキストフィールドのデフォルト値が 80 であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「Web コンテナのユーザーとグループ」ページが表示されます。

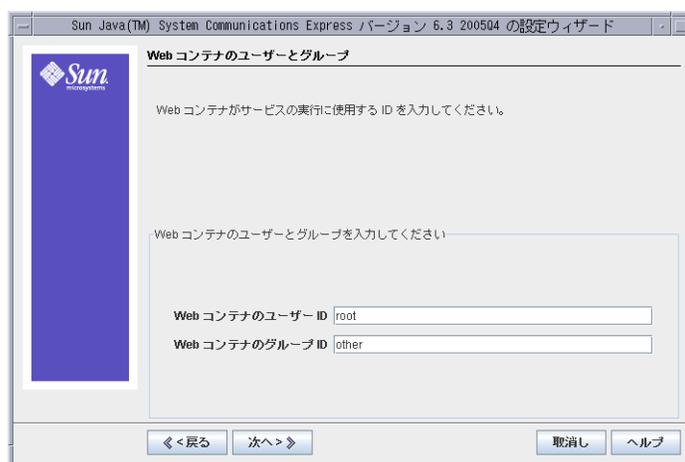


図 6-20 「Web コンテナのユーザーとグループ」ページ

10. 次の操作を行います。

- 「Web コンテナのユーザー ID」テキストフィールドに、「**root**」と入力します。
- 「Web コンテナのグループ ID」テキストフィールドに、「**other**」と入力します。

「次へ」をクリックします。「URI パス」ページが表示されます。

11. 「次へ」をクリックしてデフォルト (**/uwc**) の値を受け入れます。

---

ヒント – デフォルト値を受け入れることで、次の URL が Communications Express インスタンスに割り当てられます。 `http://evaluation_host:80/uwc`。

---

「ホストドメインのサポートを使用しますか？」 ページが表示されます。

12. 「次へ」 をクリックしてデフォルトの値 (管理されたドメインサポートは選択されていない) を受け入れます。

「ユーザー/グループのディレクトリサーバーの詳細」 ページが表示されます。



図 6-21 「ユーザー/グループのディレクトリサーバーの詳細」 ページ

13. 次の操作を行います。

- 「LDAP URL」 テキストフィールドのデフォルト値が `ldap://evaluation_host:389` であることを確認します。
- 「バインド DN」 テキストフィールドのデフォルト値が `cn=Directory Manager` であることを確認します。Directory と Manager の間にはスペースがあります。
- 「管理者のパスワード」 テキストフィールドに、「password」と入力します。

---

ヒント – このページの値によって、Directory Server のデフォルトインスタンスが指定されます。

---

「次へ」 をクリックします。「DC ツリーのサフィックス」 ページが表示されません。

14. デフォルト値が **o=examplecorp** であることを確認します。

---

ヒント – **o=examplecorp** は、Directory Server のインストール時に評価ソリューション用に設定したベースサフィックスです。

---

「次へ」をクリックします。「デフォルトドメイン名」ページが表示されます。



図 6-22 「デフォルトドメイン名」ページ

15. 「ドメイン名を入力してください」テキストフィールドで、「**examplecorp.com**」と入力します。

---

ヒント – **examplecorp.com** は、Messaging Server インスタンスの設定時に作成したメールドメインの名前です。

---

「次へ」をクリックします。「Identity Server の設定」ページが表示されます。

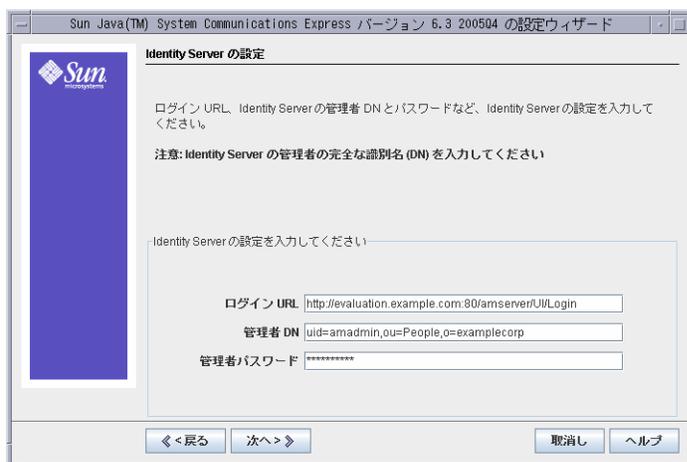


図 6-23 「Identity Server の設定」 ページ

16. 次の操作を行なって、**Access Manager** インスタンスの特定と接続に必要な情報を入力します。

- 「ログイン URL」テキストフィールドのデフォルト値が `http://evaluation_host:80/amserver/UI/login` であることを確認します。
- 「管理者 DN」テキストフィールドで、「`uid=amAdmin,ou=People,o=examplecorp`」と入力します。
- 「管理者のパスワード」テキストフィールドに、「`password`」と入力します。

---

ヒント - このページの値により、Access Manager の管理者アカウントが指定されます。

---

「次へ」をクリックします。「Messenger Express ポート」ページが表示されます。

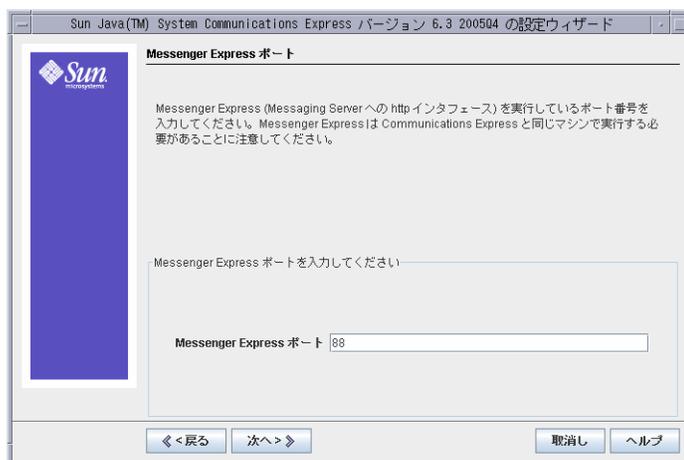


図 6-24 「Messenger Express ポート」 ページ

17. 次の操作を行います。

- 「Messenger Express ポート」テキストフィールドで、「88」と入力します。  
「次へ」をクリックします。「Calendar Server のホストおよびポートの設定」ページが表示されます。



図 6-25 「Calendar Server のホストおよびポートの設定」 ページ

18. 次の値を入力します。

- 「Calendar Server のホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* の名前であることを確認します。

- 「Calendar Server のポート番号」テキストフィールドで、「89」と入力します。

「次へ」をクリックします。「Calendar Server の管理者の詳細」ページが表示されます。



図 6-26 「Calendar Server の管理者の詳細」ページ

19. 次の操作を行います。

- 「管理者ユーザー ID」テキストフィールドのデフォルト値が `calmaster` であることを確認します。
- 「管理者ユーザーパスワード」テキストフィールドに、「**password**」と入力します。

「次へ」をクリックします。「PAB Directory Server の詳細」ページが表示されます。

20. 次の値を確認します。

- 「ログイン URL」テキストフィールドのデフォルト値が `ldap://evaluation_host:389` であることを確認します。
- 「管理者 DN」テキストフィールドのデフォルト値が `cn=Directory Manager` であることを確認します。Directory と Manager の間にはスペースがあります。
- 「管理者パスワード」テキストフィールドのデフォルト値が `password` であることを確認します。

---

ヒント - 「PAB Directory Server の詳細」ページの値により、Directory Server のデフォルトインスタンスが指定されます。

---

「次へ」をクリックします。「設定する準備が整いました」ページが表示されま  
す。

21. 情報を確認します。「今すぐ設定」をクリックします。  
「タスクシーケンスの開始」ページに、設定プロセスに関するメッセージが表示さ  
れます。設定プロセスが完了すると、「シーケンスを完了」ページが表示されま  
す。
22. 「次へ」をクリックします。  
「Web Server Restart」ダイアログボックスが表示されます。
23. 「了解」をクリックします。  
「設定サマリ」ページが表示されます。
24. 設定サマリを確認し、「次へ」をクリックします。  
「設定後の手順」ページが表示されます。

---

ヒント – この部分には、評価ソリューション用の設定後の特定の手順が記載されて  
います。

---

25. 「閉じる」をクリックします。
26. **Web Server** ディレクトリに移動します。  

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-<evaluation_host\>
```
27. 次のコマンドを実行して**Web Server** を再起動します。

```
./stop; ./start
```

Web Server により、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、  
しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示  
されます。

```
startup: server started successfully
```

Communications Express のインスタンスの作成および起動はこれで完了です。

---

ヒント – シングルサインオンの評価ソリューションを設定したら、  
Communications Express を使用します。詳細については、[125 ページ](#)  
の「[Communications Express における Access Manager のシングルサインオンの](#)  
[使用](#)」を参照してください。

---



## 第 7 章

---

# 評価ソリューション用のユーザー管理

---

この章では、LDAP ディレクトリの設定を完了するための手順と、メッセージング、カレンダー、ポータル各サービスを使用する権限を持ったテストユーザーアカウントを追加するための手順について説明します。インストールと設定の計画で説明したように、最初に Delegated Administrator インスタンスの設定を行い、次に Delegated Administrator を使ってテスト用のエンドユーザーアカウントを追加します。この章では、次の節でユーザー管理の手順を説明します。

- 109 ページの「[Delegated Administration ユーティリティーの設定](#)」
- 116 ページの「[メールサービスおよびカレンダーサービス用の LDAP 組織の設定](#)」
- 117 ページの「[エンドユーザーアカウントのプロビジョニング](#)」

設定と検証の手順の概要については、35 ページの「[インストールと設定の計画の作成](#)」を参照してください。入力する設定値と実行するコマンドの詳細については、49 ページの「[Delegated Administrator 設定ウィザードの詳細](#)」および 51 ページの「[Delegated Administrator コマンド行の詳細](#)」を参照してください。

---

## Delegated Administration ユーティリティーの設定

ここでは、Delegated Administration ユーティリティーの設定について説明します。Delegated Administration ユーティリティーの設定では、次の作業を行います。

- Delegated Administrator が使用する Directory Server インスタンスを指定します。評価ソリューションでは、デフォルトの Directory Server インスタンスを使用するように Delegated Administrator を設定します。
- Delegated Administrator によって作成されたユーザーおよびグループのデータの場所を指定します。評価ソリューションでは、ユーザーおよびグループのデータを `o=examplecorp.com,o=examplecorp` 組織に追加するように Delegated Administrator を設定します。

- Delegated Administrator がデフォルトの Directory Server インスタンスと相互運用するのに必要な管理者の ID およびパスワードを指定します。

## ▼ Delegated Administration ユーティリティーを設定するには

この手順では、評価ソリューション用の Delegated Administrator インスタンスの設定方法を示します。入力値の概要については、49 ページの「[Delegated Administrator 設定ウィザードの詳細](#)」を参照してください。

- 手順 1. **Delegated Administration** ユーティリティーのディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWcomm/sbin
```

2. 次のコマンドを実行して、設定ウィザードを起動します。

```
./config-commda
```

設定ウィザードの「ようこそ」ページが表示されます。

3. 「次へ」をクリックします。  
「設定およびデータファイルの格納先ディレクトリを選択」ページが表示され  
ます。
4. 「次へ」をクリックしてデフォルトのディレクトリを受け入れます。  
「新規ディレクトリを作成しますか？」ダイアログボックスが表示されま  
す。
5. 「ディレクトリを作成」をクリックします。  
「設定するコンポーネントを選択」ページが表示されます。
6. **Delegated Administrator** クライアント、**Delegated Administration Server**、およ  
び **Delegated Administration** コンソールの 3 つのコンポーネントがすべて選択さ  
れていることを確認します。「次へ」をクリックします。  
「Access Manager のホストとポート」ページが表示されます。

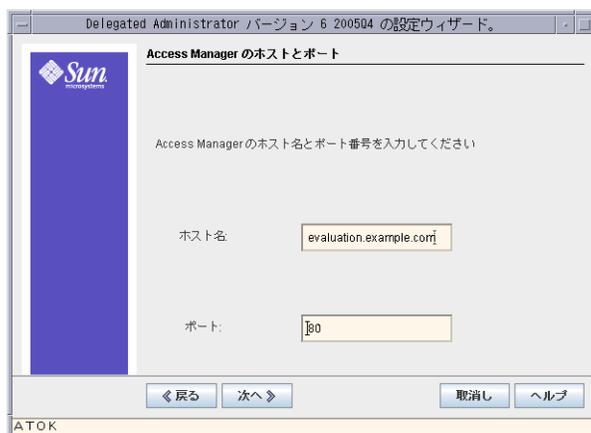


図 7-1 「Access Manager のホストとポート」 ページ

7. 次の操作を実行して、*evaluation\_host* 上の **Access Manager** インスタンスを指定します。

- 「ホスト名」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
- 「ポート」テキストフィールドに **80** と入力します。

「次へ」をクリックします。「デフォルトドメイン」ページが表示されます。

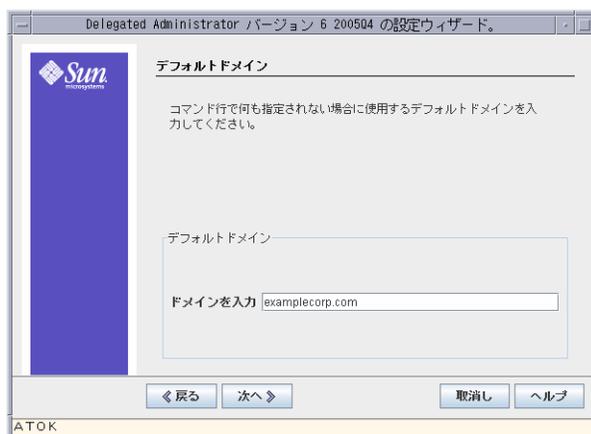


図 7-2 「デフォルトドメイン」 ページ

8. 「ドメインを入力」テキストフィールドに **examplecorp.com** と入力します。「次へ」をクリックします。「Delegated Administration クライアントのデフォルト SSL ポート」ページが表示されます。

9. 「次へ」をクリックしてデフォルト値 (443) を受け入れます。  
「Web コンテナ」ページが表示されます。
10. デフォルト値が **Web Server** であることを確認します。「次へ」をクリックします。  
「Web Server 設定の詳細」ページが表示されます。
11. 次のようにして、デフォルト値によってデフォルトの **Web Server** インスタンスが特定されることを確認します。
  - 「サーバールートディレクトリ」テキストフィールドのデフォルト値が /opt/SUNWwbsvr であることを確認します。
  - 「サーバーインスタンスの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
  - 「仮想サーバーの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *https-evaluation\_host* であることを確認します。
  - 「サーバー HTTP ポート」テキストフィールドのデフォルト値が **80** であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「デフォルトのドメイン区切り文字」ページが表示されます。
12. 「次へ」をクリックしてデフォルト値 (@) を受け入れます。  
「Access Manager ベースディレクトリ」ページが表示されます。
13. 「次へ」をクリックしてデフォルト値を受け入れます。  
「Web Server の設定の詳細」ページが表示されます。
14. 次のようにして、デフォルト値によってデフォルトの **Web Server** インスタンスが特定されることを確認します。
  - 「サーバールートディレクトリ」テキストフィールドのデフォルト値が /opt/SUNWwbsvr であることを確認します。
  - 「サーバーインスタンスの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。
  - 「仮想サーバーの識別子」テキストフィールドのデフォルト値が *https-evaluation\_host* であることを確認します。
  - 「サーバー HTTP ポート」テキストフィールドのデフォルト値が **80** であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「Directory (LDAP) Server」ページが表示されます。



図 7-3 「Directory (LDAP) Server パネル」 ページ

15. 次の操作を実行して、デフォルトの **Directory Server** インスタンスを指定します。

- 「LDAP URL」テキストフィールドのデフォルト値 `ldap://evaluation_host389` を受け入れます。
- 「バインド名」テキストフィールドのデフォルト値 `cn=Directory Manager` を受け入れます。Directory と Manager の間にはスペースがあります。
- 「パスワード」テキストフィールドに、**password** と入力します。

「次へ」をクリックします。「Access Manager 最上位管理者」ページが表示されます。



図 7-4 「Access Manager 最上位管理者」 ページ

16. 次の操作を実行して、**Access Manager** インスタンスの最上位管理者を特定します。

- 「ユーザー名」テキストフィールドのデフォルト値 **amadmin** を受け入れません。
- 「パスワード」テキストフィールドに、**password** と入力します。

「次へ」をクリックします。「Access Manager 内部 LDAP 認証パスワード」ページが表示されます。



図 7-5 「Access Manager 内部 LDAP 認証パスワード」ページ

17. 次の操作を実行して、**Access Manager** インスタンスの内部ユーザーを指定します。

- 「ユーザー名」テキストフィールドのデフォルト値 **amldapuser** を受け入れません。
- 「パスワード」テキストフィールドに、**ldappassword** と入力します。

「次へ」をクリックします。「デフォルトのドメインの組織 DN」ページが表示されます。

18. デフォルトの組織 DN として **o=examplecorp.com,o=examplecorp** が指定されていることを確認します。

---

ヒント - この組織 DN によって、Messaging Server 設定ウィザードで作成した LDAP 組織 (および関連するメールドメイン) が指定されます。

---

「次へ」をクリックします。「デフォルト組織の最上位管理者」ページが表示されます。

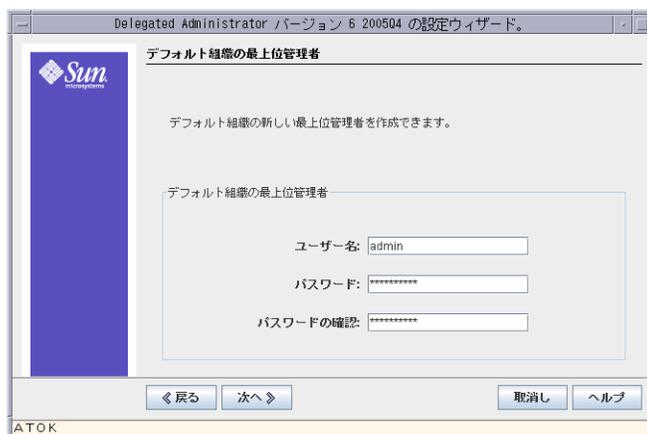


図 7-6 「デフォルト組織の最上位管理者」ページ

19. 次の操作を実行して、**Delegated Administrator** ユーティリティの最上位管理者を作成します。

- デフォルトの管理ユーザー ID を受け入れます。
- 管理パスワードとして **password** と入力します。

「次へ」をクリックします。「サービスパッケージと組織のサンプル」ページが表示されます。

20. 次の操作を行います。

- 「サンプルサービスパッケージを読み込む」が選択されていることを確認します。
- 「サンプル組織を読み込む」が選択されていることを確認します。
- 「サンプルの優先メールホスト」テキストフィールドのデフォルト値が *evaluation\_host* であることを確認します。

「次へ」をクリックします。「設定する準備が整いました」ページが表示されます。

21. 設定の概要を確認します。

「今すぐ設定」をクリックします。「作業シーケンスを起動中」ページが表示されます。設定が完了すると、「シーケンスを完了」ページが表示されます。

22. メッセージを確認し、**Delegated Administration** ユーティリティが正しく設定されたことを確認します。次のメッセージが表示されます。

All Tasks Passed

「次へ」をクリックします。「Web Server の再起動」ダイアログボックスが表示されます。

23. 「了解」をクリックします。  
「デフォルトのドメイン設定後の作業」ダイアログボックスが表示されます。

---

ヒント – このマニュアルには、評価例に関する設定後の作業が記載されています。

---

24. 「了解」をクリックします。  
「インストールサマリー」ページが表示されます。
25. インストールサマリーを確認します。  
「閉じる」をクリックします。設定ウィザードが閉じます。

26. **Web Server** のデフォルトインスタンスディレクトリに移動します。  
このディレクトリ名には、**Web Server** をインストールしたシステムの完全修飾名が含まれています。

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-evaluation_host
```

27. 次のコマンドを実行して、**Web Server** を再起動します。

```
./stop; ./start
```

**Web Server** により、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
startup: server started successfully
```

これで、デフォルトの **Directory Server** インスタンスと相互動作するように **Delegated Administrator** が設定されました。

---

## メールサービスおよびカレンダーサービス用の LDAP 組織の設定

ユーザーが **Java ES** サービスにログインしようとする時、サービスにより **LDAP** 認証が実行され、サービスを使用する権限がユーザーにあるかどうかを判別されます。**LDAP** 認証では、サービスに対するアクセスが許可されていることを示す特定のオブジェクトクラスと属性が、ユーザーの **LDAP** データに含まれているかどうかを調べられます。

- それらの特定のオブジェクトクラスと属性がユーザーの **LDAP** データに含まれている場合、ユーザーはログインを許可されます。
- それらのオブジェクトクラスと属性がユーザーの **LDAP** データに含まれていない場合、ユーザーはログインを拒否されます。

Java ES サービスごとに、認証に使用されるオブジェクトクラスと属性の集合があります。

属性とオブジェクトクラスの追加は、スキーマの拡張と呼ばれます。評価ソリューションでは、`o=examplecorp.com,o=examplecorp` 組織にテストユーザーアカウントを作成する前に、メールサービスとカレンダーサービスの認証に使用される LDAP オブジェクトクラスと属性を組織に追加します。

ここでは、メッセージングサービス、カレンダーサービス、およびポータルサービスの認証に使用されるオブジェクトクラスと属性で LDAP 組織のスキーマを拡張する方法を説明します。

## ▼ メッセージングサービスおよびカレンダーサービス用に LDAP 組織のスキーマを拡張するには

この手順では、メールおよびカレンダーの認証に必要な LDAP 属性とオブジェクトクラスを `o=examplecorp.com,o=examplecorp` 組織に追加する方法を示します。コマンド構文の概要については、51 ページの「[Delegated Administrator コマンド行の詳細](#)」を参照してください。

- 手順 1. **Delegated Administration** ユーティリティのディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWcomm/bin
```

2. **comadmin domain modify** コマンドを次のように使用して、LDAP 組織を拡張します。

```
./comadmin domain modify -D admin -w password -d examplecorp.com
-S mail -H evaluation_host -S cal -B evaluation_host -P allowProxyLogin:yes
-T America/Los_Angeles
```

3. **DNS** ドメイン名の入力を要求するプロンプトが表示される場合があります。その場合は、*evaluation\_domain* を入力して **Enter** キーを押します。

---

## エンドユーザーアカウントのプロビジョニング

ここでは、Delegated Administration ユーティリティコンソールを使用してテストユーザーアカウントをプロビジョニングする方法について説明します。評価ソリューションのポータルサービス、メールサービス、およびカレンダーサービスに対するアクセスをテストアカウントに許可します。コマンド構文の概要については、51 ページの「[Delegated Administrator コマンド行の詳細](#)」を参照してください。

運用システムでは、Java ES 管理者がユーザーを管理します。LDAP 組織計画、LDAP データベース管理、および委任管理などのユーザー管理タスクについては、この章では説明していません。

## ▼ テスト用のエンドユーザーアカウントを作成するには

手順 1. **Delegated Administration** ユーティリティーのディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWcomm/bin
```

2. 次のコマンドを実行して、テスト用のユーザーアカウントを作成し、そのアカウントをメッセージングサービスおよびカレンダーサービス用にプロビジョニングします。

```
./commadmin user create -D admin -w password -l TestUser -F Test -L User
-W password -S mail -H evaluation_host -E test.user@examplecorp.com -S cal
-B evaluation_host -J 0 -T America/Los_Angeles -k legacy
```

3. 次のコマンドを実行して、新しいアカウントをさらにポータルサービス用にプロビジョニングします。

```
./commadmin user modify -D admin -w password -l TestUser
-A +objectclass:sunsoadadapterperson
-A +objectclass:sunportaldesktopperson
```

ユーザーアカウントを作成し、そのアカウントをメッセージングサービス、カレンダーサービス、およびポータルサービス用にプロビジョニングする作業はこれで完了です。

## ▼ テスト用のエンドユーザーアカウントを確認するには

この手順では、Instant Messaging にログインすることによってテスト用のエンドユーザーアカウントを確認する方法を示します。

手順 1. **Web** ブラウザで、次の URL を開きます。

```
http://evaluation_host/im/en/im.jnlp
```

「Java Web Start」ダイアログボックスが一時的に表示されます。Instant Messaging のログインページが表示されます。

2. 次の値を入力します。

■ ユーザー ID: **TestUser**

■ パスワード: **password**

「ログイン」をクリックします。Instant Messaging のメインウィンドウが表示されます。これによって、テストアカウントが正しくプロビジョニングされたことが確認されます。



図 7-7 Instant Messaging のメインウィンドウ

3. メインウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。

---

ヒント – Instant Messaging の機能を評価するには、追加のテストユーザーアカウントを作成します。複数のテストアカウントに同時にログインし、テストアカウント間でメッセージを送信します。

---



## 第 8 章

---

# シングルサインオン (SSO) の設定および使用

---

シングルサインオン (SSO) が有効になっているとき、Java ES ユーザーはアクセスする最初のサービスにログインします。その後、ユーザーは再度ログインすることなく、シングルサインオンが有効になっているほかのサービスを使用できます。評価ソリューションでは、SSO はメッセージングサービスとカレンダーサービスに対して有効になっています。テストアカウントは、Communications Express の Web ベースインタフェースにログインし、メールサービスとカレンダーサービスの両方にアクセスすることができます。テストアカウントは、ポータルデスクトップにログインし、ポータルデスクトップ経由でメールサービスとカレンダーサービスの両方にアクセスすることもできます。運用ソリューションでは、Access Manager はユーザー独自のアプリケーションを含むほかの種類サービスに対するシングルサインオンもサポートします。

この章では、次の節でシングルサインオンの設定方法と使用方法について説明します。

- 121 ページの「シングルサインオンについて」
- 122 ページの「Access Manager のシングルサインオン用の設定」
- 125 ページの「Communications Express における Access Manager のシングルサインオンの使用」
- 127 ページの「Portal Server のプロキシ認証用の設定」
- 140 ページの「ポータルデスクトップでのプロキシ認証の使用」
- 141 ページの「コンポーネントのアンインストール」

---

## シングルサインオンについて

Java ES には、SSO の実装に必要な 2 つの関連するメカニズムが用意されています。ここでは、この 2 つのメカニズムについて説明します。

## Access Manager のシングルサインオンについて

Access Manager の SSO は、すべての Web ベースインタフェースに対する SSO アクセスをサポートします。ユーザーが Web ブラウザ経由で最初に SSO 対応のサービスにアクセスすると、Access Manager はそのユーザーを認証し、SSO Cookie をユーザーの Web ブラウザに送信します。ユーザーが別の SSO 対応サービスにアクセスすると、ユーザーの Web ブラウザは最初にユーザーのセッションがまだ開いていることを Access Manager に確認し、次に認証を確認する SSO Cookie を Access Manager に返送します。ユーザーは、再度ログインすることなく、次のサービスにアクセスできます。

評価ソリューション用に Access Manager の SSO を設定するには、デフォルトの認証メカニズムの代わりに SSO を使用するように Messaging Server インスタンスと Calendar Server インスタンスを設定します。Access Manager と Communications Express は、デフォルトで Access Manager の SSO 用に設定されています。

## Portal Server プロキシ認証について

Portal Server プロキシ認証では、個々のユーザー ID の代わりにプロキシユーザー ID が使用されます。ユーザーがポータルサービスにログインするとき、ポータルサービスはポータルサービスへのアクセスに関してユーザー自身の ID を認証します。ポータルデスクトップのチャンネルがプロキシ認証用に設定されていると、ポータルサービスはプロキシユーザー ID を使用してチャンネルサービスを認証し、ユーザーの情報がポータルデスクトップのチャンネルセクションに表示されます。

ポータルサービスのプロキシ認証を設定するには、Access Manager コンソールを使用して各サービスの SSO アダプタを設定します。また、プロキシ認証に必要な LDAP 属性を使って各ユーザーアカウントをプロビジョニングする必要があります。

評価ソリューションでは、サンプルポータルデスクトップのメールチャンネルとカレンダーチャンネルに対してプロキシ認証を設定します。プロキシアカウントには、各サービスの管理者アカウントを使用します。つまり、メールサービスには admin アカウントを使用し、カレンダーサービスには calmaster アカウントをしようします。テストユーザーアカウントは、すでにこれらのサービス用にプロビジョニングされています。

---

## Access Manager のシングルサインオン用の設定

ここでは、評価ソリューションのメールサービスとカレンダーサービスを Access Manager の SSO 用に設定する方法について説明します。

## ▼ SSO 用に Messaging Server を設定するには

手順 1. **Messaging Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
```

2. 次のように **Messaging Server** の設定コマンドを実行します。

```
a. ./configutil -o local.webmail.sso.amnamingurl -v
http://evaluation_host/amserver/namingservice
```

```
b. ./configutil -o local.webmail.sso.uwcnabled -v 1
```

```
c. ./configutil -o local.webmail.sso.uwclogouturl -v
http://evaluation_host:80/uwc/base/UWCMain\?op=logout
```

```
d. ./configutil -o local.webmail.sso.uwcport -v 80
```

```
e. ./configutil -o local.webmail.sso.uwccontexturi -v "uwc"
```

```
f. ./configutil -o local.webmail.sso.amcookieName -v
iPlanetDirectoryPro
```

```
g. ./configutil -o local.webmail.sso.uwchome -v
http://evaluation_host/uwc
```

```
h. ./configutil -o service.http.allowadminproxy -v yes
```

```
i. ./configutil -o service.http.ipsecurity -v no
```

3. 次のコマンドを実行して、**Messaging Server** を停止します。

```
./stop-msg
```

4. 次のコマンドを実行して、**Messaging Server** を再起動します。

```
./start-msg
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
starting job-controller server
```

**Messaging Server** の SSO 用の設定はこれで完了です。

## ▼ SSO 用に Calendar Server を設定するには

ここでは、Calendar Server の SSO 用の設定について説明します。

手順 1. **Calendar Server** 設定ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWics5/cal/config
```

2. **ics.conf** ファイルを編集します。

次の各パラメータを検索し、説明に従って変更します。場合によっては、値を変更し、行のコメントを外します。それ以外の場合は、単に行のコメントを外します。

- a. **service.http.allowadminproxy** を検索します。値を **yes** に設定します。
- b. **local.calendar.sso.amnamingurl** を検索します。その項目のコメントを外し、値を **http://evaluation\_host:80/amserver/namingservice** に設定します。
- c. **local.calendar.sso.singlesignoff** を検索します。その項目のコメントを外します。値は、**yes** に設定したままにします。
- d. **local.calendar.sso.amcookieName** を検索します。その項目のコメントを外します。値は、**iPlanetDirectoryPro** に設定したままにします。
- e. **local.calendar.sso.logname** を検索します。その項目のコメントを外します。値は、**am\_sso.log** に設定したままにします。
- f. **service.calendarsearch.ldap** を検索します。値を **no** に設定します。
- g. **service.http.ipsecurity** を検索します。その項目のコメントを外します。値を **n** に変更します。
- h. **caldb.serveralarms** を検索します。値が **1** であることを確認します。
- i. **caldb.serveralarms.dispatch** を検索します。値が **yes** であることを確認します。
- j. **caldb.serveralarms.url** を検索します。その項目のコメントを外し、値が **enp:///ics/customalarm** であることを確認します。
- k. **caldb.serveralarms.contentType** を検索します。その項目のコメントを外し、値を **text/calendar** に設定します。
- l. **caldb.serveralarms.dispatchtype** を検索します。値が **ens** であることを確認します。

3. **ics.conf** ファイルを保存して閉じます。

4. **Calendar Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
```

5. 次のコマンドを実行して、**Calendar Server** を停止します。

```
./stop-cal
```

6. 次のコマンドを実行して、**Calendar Server** を再起動します。

```
./start-cal
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Calendar services were started.
```

Calendar Server の SSO 用の設定はこれで完了です。

---

## Communications Express における Access Manager のシングルサインオンの 使用

ここでは、Communications Express にログインし、シングルサインオン認証を使用して1回のログインでメールサービスとカレンダーサービスにアクセスする方法について説明します。

### ▼ SSO を使用して Communications Express にログインするには

- 手順 1. **Web** ブラウザで、**Communications Express** にログインします。次の **URL** を開きます。

```
http://evaluation_host/uwc
```

Communications Express の認証ページが表示されます。

2. テストユーザーとしてログインします。次の値を入力します。

- ユーザー名: **TestUser**
- パスワード: **password**

「ログイン」ボタンをクリックします。Communications Express のメインウィンドウが表示されます。「メール」タブを選択します。テストユーザーの名前と電子メールアドレス (test.user@examplecorp.com) が表示されます。これによって、テストユーザーとしてログインしたことが確認されます。

3. 「メール作成」をクリックします。  
「新規メッセージ」ウィンドウが開きます。

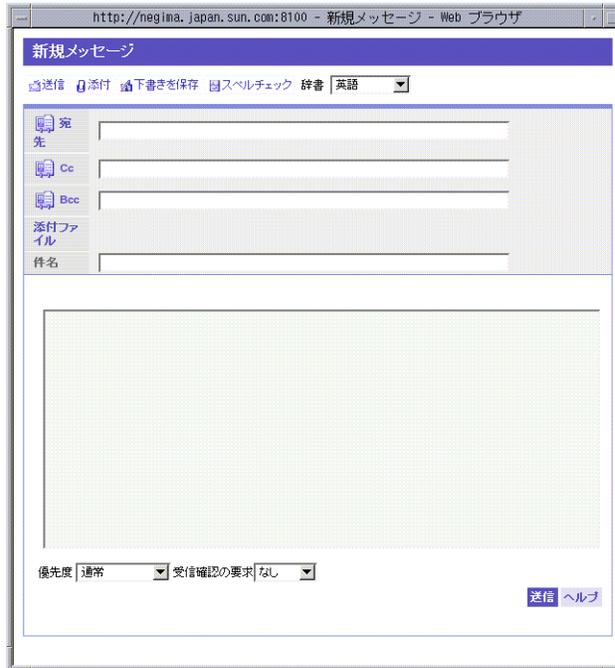


図 8-1 「新規メッセージ」ウィンドウ

4. テストメッセージを作成します。次の操作を行います。
  - 「差出人」フィールドに、**test.user@examplecorp.com** と入力します。
  - 「件名」フィールドに、**Test Message** と入力します。
  - 「プレーンテキスト」をクリックします。
  - メッセージ本文に、**This is a test** と入力します。
  - 「送信」をクリックします。

「新規メッセージ」ウィンドウが閉じます。
5. 「メールの受信」をクリックします。  
テストユーザーの受信ボックスにテストメッセージが表示されます。
6. 「カレンダー」タブをクリックします。  
テストユーザーのカレンダーが表示されます。
7. 「新しいイベント」をクリックします。  
「新しい予定」ウィンドウが表示されます。
8. テストイベントを追加します。次の操作を行います。

- 「イベントのタイトル」テキストフィールドに、**Test Event** と入力します。
- 「日付」、「時刻」、「継続期間」の各フィールドのデフォルト値を受け入れます。
- 「場所」テキストフィールドに、**Test User's Office** と入力します。
- 「保存」をクリックします。

「新しい予定」ウィンドウが閉じます。テストユーザーのカレンダーにテストイベントが表示されます。

9. これによって、**SSO** が機能していることが確認されます。これは、**1** 回のログインでメールサービスとカレンダーサービスの両方にアクセスできるためです。
10. 「ログアウト」をクリックします。

Java ES サービスをシングルサインオン用に設定してシングルサインオン認証を使用する作業と、シングルサインオンを使用してメールサービスとカレンダーサービスにアクセスする作業は、これで完了です。

---

## Portal Server のプロキシ認証用の設定

ここでは、サンプルポータルデスクトップに表示されるサンプルのメールチャンネルとカレンダーチャンネルをプロキシ認証用に設定する方法について説明します。

### ▼ SSO アダプタサービス用にポータル「カレンダー」チャンネルを設定するには

サンプルポータル「カレンダー」チャンネル用にプロキシ認証を有効にするには、SSO アダプタサービスを設定します。この設定は、Identity Server コンソールで行います。

- 手順
1. **Web** ブラウザで、次の **URL** を開きます。  
`http://evaluation_host/amconsole/index.html`  
Access Manager のログインページが表示されます。
  2. ユーザー名 (**amadmin**) とパスワード (**password**) を入力します。  
「ログイン」をクリックします。Access Manager コンソールのウィンドウが表示されます。
  3. 「サービス設定」タブをクリックします。  
Access Manager のサービスが表示されます。

4. 左区画をスクロールダウンします。「Portal Server 設定」の「SSO アダプタ」を表示し、「SSO アダプタ」の横の矢印をクリックします。  
右区画に、SSO アダプタサービスのプロパティが表示されます。図 8-2 と同様の画面が表示されます。

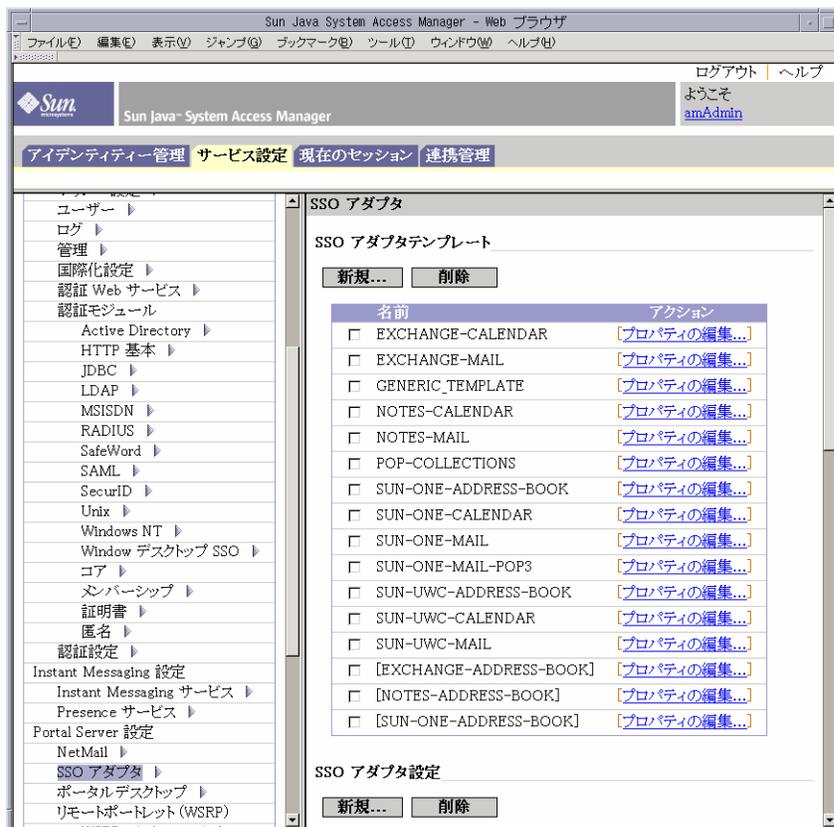


図 8-2 SSO アダプタプロパティ

5. **SUN-ONE-CALENDAR** 設定プロパティを編集します。次の操作を行います。
  - a. 「SSO アダプタのテンプレート」のリストを見つけます。
  - b. **SUN-ONE-CALENDAR** アダプタテンプレートの行を見つけます。「プロパティの編集」をクリックします。  
右区画に、テンプレートプロパティの詳細が表示されます。
6. **host** プロパティを見つけます。それを選択し、「タイプの変更」をクリックします。  
右区画に、「プロパティタイプの編集」画面が表示されます。

7. いくつかのプロパティの値を「マージ」から「デフォルト」に変更します。次の操作を行います。
  - a. **host** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - b. **port** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - c. **clientPort** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。  
「保存」をクリックします。SUN-ONE-CALENDAR アダプタのプロパティのリストが表示されます。
8. テキストフィールドを使用して、次のプロパティの値を編集します。
  - a. **enableProxyAuth** プロパティを見つけます。値を **true** に変更します。
  - b. **proxyAdminUid** プロパティを見つけます。値を **calmaster** に変更します。
  - c. **proxyAdminPassword** プロパティを見つけます。値を **password** に変更します。
  - d. **host** プロパティを見つけます。値を *evaluation\_host* に変更します。
  - e. **port** プロパティを見つけます。値を **89** に変更します。
  - f. **clientPort** プロパティを見つけます。値を **89** に変更します。  
「保存」をクリックして、変更を適用します。
9. 左区画で、**SSO** アダプタ名に続く矢印記号をクリックします。  
右区画に、SSO アダプタサービスのプロパティが表示されます。図 8-2 と同様の画面が表示されます。
10. **SUN-UWC-CALENDAR** 設定プロパティを編集します。次の操作を行います。
  - a. 「**SSO** アダプタのテンプレート」のリストを見つけます。
  - b. **SUN-UWC-CALENDAR** テンプレートの行を見つけます。「プロパティの編集」をクリックします。  
右区画に、SUN-UWC-CALENDAR プロパティの詳細が表示されます。
11. **host** プロパティを見つけます。それを選択し、「タイプの変更」をクリックします。  
右区画に、「プロパティタイプの編集」画面が表示されます。
12. いくつかのプロパティの値を **merge** から **default** に変更します。
  - a. **host** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - b. **port** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。

- c. **clientHost** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - d. **clientPort** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。  
「保存」をクリックします。右区画に、SSO アダプタのプロパティのリストが再表示されます。
13. テキストフィールドを使用して、次のプロパティの値を編集します。
- a. **enableProxyAuth** プロパティを見つけます。値を **true** に変更します。
  - b. **proxyAdminUid** プロパティを見つけます。値を **calmaster** に変更します。
  - c. **proxyAdminPassword** を見つけます。値を **password** に変更します。
  - d. **serverSSOEnabled** プロパティを見つけます。値を **true** に変更します。
  - e. **host** プロパティを見つけます。値を *evaluation\_host* に変更します。
  - f. **port** プロパティを見つけます。値を **89** に変更します。
  - g. **clientHost** プロパティを見つけます。値を *evaluation\_host* に変更します。
  - h. **clientPort** プロパティを見つけます。値を **80** に変更します。
14. 「保存」をクリックして、変更を適用します。  
ポータルカレンダーチャンネルのプロキシ認証用の設定はこれで完了です。引き続き Access Manager コンソールで作業を行います。

## ▼ SSO アダプタサービス用にポータル「メール」チャンネルを設定するには

サンプルポータル「メール」チャンネル用にプロキシ認証を有効にするには、SSO アダプタサービスを設定します。この設定は、Access Manager コンソールで実行します。

- 手順
1. 左区画で、**SSO** アダプタ名に続く矢印記号をクリックします。  
右区画に、SSO アダプタサービスのプロパティが表示されます。図 8-2 と同様の画面が表示されます。
  2. **SUN-ONE-MAIL** 設定プロパティを編集します。次の操作を行います。
    - a. 「**SSO** アダプタのテンプレート」のリストを見つけます。



7. 左区画で、**SSO** アダプタ名に続く矢印記号をクリックします。  
右区画に、SSO アダプタサービスのプロパティが表示されます。図 8-2 と同様の画面が表示されます。
8. **SUN-UWC-MAIL** 設定プロパティを編集します。次の操作を行います。
  - a. 「**SSO** アダプタのテンプレート」のリストを見つけます。
  - b. **SUN-UWC-MAIL** テンプレートの行を見つけます。「プロパティの編集」をクリックします。  
右ページに、SUN-UWC-MAIL テンプレートプロパティの詳細が表示されます。
9. **host** プロパティを見つけます。それを選択し、「タイプの変更」をクリックします。  
右区画に、「プロパティタイプの編集」画面が表示されます。
10. いくつかのプロパティの値を **merge** から **default** に変更します。
  - a. **host** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - b. **port** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - c. **smtpServer** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - d. **clientPort** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - e. **smtpPort** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。
  - f. **domain** プロパティを選択します。「デフォルトに移動」をクリックします。  
「保存」をクリックします。右区画に、SUNW-UWC-MAIL アダプタのテンプレートプロパティのリストが再表示されます。
11. テキストフィールドを使用して、次のプロパティの値を編集します。
  - a. **enableProxyAuth** プロパティを見つけます。値を **true** に変更します。
  - b. **proxyAdminUid** プロパティを見つけます。値を **admin** に変更します。
  - c. **proxyAdminPassword** を見つけます。値を **password** に変更します。
  - d. **host** プロパティを見つけます。値を *evaluation\_host* に変更します。
  - e. **port** プロパティを見つけます。値を **143** に変更します。
  - f. **smtpServer** プロパティを見つけます。値を *evaluation\_host* に変更します。

- g. **clientPort** プロパティを見つけます。値を **88** に変更します。
  - h. **smtpPort** プロパティを見つけます。値を **25** に変更します。
  - i. **domain** プロパティを見つけます。空白になっていることを確認します。
  - j. **serverSSOEnabled** プロパティを見つけます。値を **true** に変更します。
12. 「保存」をクリックして、変更を適用します。

13. コマンド行で、**Web Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWwbsvr/https-evaluation_host
```

14. 次のコマンドを実行して、**Web Server** を再起動します。

```
./stop; ./start
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
startup: server started successfully
```

Web Server を再起動すると、Portal Server が再起動し、すべての設定変更が適用されます。

## ▼ プロキシ認証用に Portal Desktop を設定するには

- 手順
1. **Access Manager** コンソールに戻ります。「アイデンティティ管理」タブをクリックします。
  2. 「表示」ドロップダウンメニューで、「サービス」を選択します。  
左区画にサービスのリストが表示されます。
  3. 左区画で、「ポータルデスクトップ」サービスを見つけます。矢印をクリックします。  
右区画にポータルデスクトップの設定が表示されます。
  4. 右区画で、「チャンネルおよびコンテナの管理」をクリックします。  
右区画にポータルデスクトップチャンネルのリストが表示されます。
  5. 右区画で、**MyFrontPageTabPanelContainer** を見つけます。それをクリックします。(「プロパティを編集」をクリックしないでください。)  
右区画に MyFrontPageTabPanelContainer チャンネルのプロパティが表示されます。
  6. 右区画で、「使用可能」リストを見つけます。

7. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「使用可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
8. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
  - a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
9. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「ポータルデスクトップに表示可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - a. **Mail** を選択します。
  - b. 「削除」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
10. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「使用可能」リストに移動します。
  - a. **Mail** を選択します。

- b. 「削除」をクリックします。  
Mail が「使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「使用可能」リストに移動します。
11. 「保存」をクリックします。
12. 右区画で、「トップ」をクリックします。  
コンテナチャンネルのリストが再表示されます。
13. 右区画で、**JSPNativeContainer** チャンネルを見つけます。それをクリックします。  
(「プロパティを編集」をクリックしないでください。)  
右区画に JSPNativeContainer チャンネルのプロパティが表示されます。
14. 右区画で、「使用可能」リストを見つけます。
15. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「使用可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
- a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
16. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
- a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。

17. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「ポータルデスクトップに表示可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - a. **Mail** を選択します。
  - b. 「削除」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
18. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「使用可能」リストに移動します。
  - a. **Mail** を選択します。
  - b. 「削除」をクリックします。  
Mail が「使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「使用可能」リストに移動します。
19. 「保存」をクリックします。
20. 右区画で、「トップ」をクリックします。  
コンテンツチャンネルのリストが再表示されます。
21. 右区画で、**JSPRenderingContainer** チャンネルを見つけます。それをクリックします。(「プロパティを編集」をクリックしないでください。)  
右区画に JSPRenderingContainer チャンネルのプロパティが表示されます。
22. 右区画で、「使用可能」リストを見つけます。
23. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「使用可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。

- d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
24. **UWCMail** チャンネルおよび **UWCCalendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
- a. **UWCMail** を選択します。
  - b. 「追加」をクリックします。  
UWCMail が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
  - c. **UWCCalendar** を選択します。
  - d. 「追加」をクリックします。  
UWCCalendar が「ポータルデスクトップに表示可能」リストに移動します。
25. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「ポータルデスクトップに表示可能」リストから「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
- a. **Mail** を選択します。
  - b. 「削除」をクリックします。  
UWCMail が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストに移動します。
26. **Mail** チャンネルおよび **Calendar** チャンネルを「コンテンツページでエンドユーザーが使用可能」リストから「使用可能」リストに移動します。
- a. **Mail** を選択します。
  - b. 「削除」をクリックします。  
Mail が「使用可能」リストに移動します。
  - c. **Calendar** を選択します。
  - d. 「削除」をクリックします。  
Calendar が「使用可能」リストに移動します。
27. 「保存」をクリックします。
28. ウィンドウの右上隅にある、「ログアウト」をクリックします。

## ▼ プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには

プロキシ認証用に Messaging Server を設定するには、コマンド行で設定コマンドを実行します。

- 手順 1. **Messaging Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWmsgsr/sbin
```

2. 次のコマンドを実行して **Messaging Server** を設定します。

```
./configutil -o store.admins admin
```

このコマンドにより、管理ユーザー ID で Messaging Server メッセージストアを管理すること、およびユーザーメールボックスにアクセスすることが可能になります。

3. 次のコマンドを実行して、メールサーバーのルートに切り替えます。

```
su mailsrv
```

4. 次のコマンドを実行して **Messaging Server** を設定します。

```
./configutil -o service.http.allowadminproxy -v yes
```

このコマンドにより、Messaging Server がプロキシアカウントを認証することが可能になります。

5. 次のコマンドを実行して、メールサーバーのルートを終了します。

```
exit
```

6. 次のコマンドを実行して **Messaging Server** を停止します。

```
./stop-msg
```

7. 次のコマンドを実行して **Messaging Server** を再起動します。

```
./start-msg
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
starting job-controller server
```

Messaging Server がプロキシ認証を受け入れるための設定はこれで完了です。

## ▼ プロキシ認証用に Calendar Server を設定するには

プロキシ認証を受け入れるように Calendar Server を設定するには、テキストエディタで Calendar Server の設定ファイルを編集します。また、コマンド行で設定コマンドも実行します。

- 手順 1. **Calendar Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /etc/opt/SUNWics5/config
```

2. テキストエディタで **ics.conf** ファイルを開きます。

次の各プロパティを検索し、説明に従って変更します。場合によっては、これは値を変更し、行のコメントを外すことを意味します。それ以外の場合は、単に行のコメントを外すことを意味します。

- a. **service.http.allowadminproxy** プロパティを見つけます。コメントが外れていることを確認します。値が **yes** に設定されていることを確認します。

```
service.http.allowadminproxy="yes"
```

- b. **service.admin.calmaster.cred** プロパティを見つけます。コメントが外れていることを確認します。値が **password** に設定されていることを確認します。

```
service.admin.calmaster.cred="password"
```

- c. **service.admin.calmaster.userid** プロパティを見つけます。コメントが外れていることを確認します。値が **calmaster** に設定されていることを確認します。

```
service.admin.calmaster.userid="calmaster"
```

- d. **ics.conf** ファイルを保存して閉じます。

3. **Calendar Server** ディレクトリに移動します。

```
cd /opt/SUNWics5/cal/sbin
```

4. 次のコマンドを実行して **Calendar Server** を停止します。

```
./stop-cal
```

5. 次のコマンドを実行して **Calendar Server** を再起動します。

```
./start-cal
```

起動プロセスにより、一連の起動メッセージが表示されます。起動プロセスには、しばらく時間がかかることがあります。起動が完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
Calendar services were started.
```

Calendar Server のプロキシ認証用の設定はこれで完了です。

---

## ポータルデスクトップでのプロキシ認証の使用

ここでは、ポータルデスクトップにログインし、プロキシ認証を使用して Messenger Express および Calendar Express のインタフェースをポータルデスクトップから直接開きます。

### ▼ プロキシ認証機能を使用するには

手順 1. **Web** ブラウザで、次の **URL** を開きます。

`http://evaluation_host/portal/dt`

サンプルポータルデスクトップが表示されます。

2. 「メンバーログイン」フィールドを使用してログインします。次の値を入力します。

- ユーザー名: **TestUser**
- パスワード: **password**

「ログイン」をクリックします。ポータルデスクトップの「カレンダー」チャンネルおよび「メール」チャンネルに、TestUser のメール情報およびカレンダー情報が表示されます。と同様の画面が表示されます。



図 8-3 メールチャンネルとカレンダーチャンネルが表示されているポータルデスクトップ

3. 「カレンダー」チャンネルおよび「メール」チャンネルには、この時点で情報が表示されています。
4. 「カレンダーを起動」をクリックします。  
Calendar Express のメインウィンドウが表示されます。これにより、プロキシ認証が Calendar Server に対して正しく設定されていることが確認されます。
5. 「メールを起動」をクリックします。  
Messenger Express のメインウィンドウが表示されます。これにより、プロキシ認証が Messaging Server に対して正しく設定されていることが確認されます。
6. 「ログアウト」をクリックします。  
評価シナリオはこれで完了です。引き続き、評価配備のその他の機能を確認できます。

## コンポーネントのアンインストール

評価が完了したら、Java Enterprise System アンインストーラを使用して、インストールしたコンポーネントを削除できます。/var/sadm/prod/entsys にアンインストーラがインストールされています。

## ▼ Java Enterprise System コンポーネントをアンインストールするには

手順 1. アンインストーラのディレクトリに移動します。

```
cd /var/sadm/prod/entsys
```

2. 次のコマンドを実行して、アンインストーラを起動します。

```
./uninstall
```

3. アンインストーラのプロンプトに回答して、アンインストールするコンポーネントを指定します。

アンインストーラの使用方法の詳細については、Java Enterprise System インストールガイドを参照してください。 <http://docs.sun.com/source/817-7054?l=ja> からオンラインでアクセスできます。

# 索引

---

## A

- adding user data, 117
- Administration Server
  - Directory Server の管理, 72
  - インストール設定, 66
  - 起動, 72
  - サーバーコンソールのインタフェース, 72

## C

- Calendar Express
  - ポータルデスクトップからのアクセス, 141
  - ログイン, 93-94
- Calendar Server
  - Directory Server との相互運用, 78
  - インスタンスの作成, 90-93, 95-99
  - シングルサインオン用の設定, 124
  - プロキシ認証の設定, 139
  - 論理アーキテクチャー内, 25

## D

- Directory Server
  - Administration Server での管理, 72
  - Sun ONE LDAP スキーマ, 80
  - インストール値, 64, 65, 66
  - 起動, 72
  - 設定, 78
  - デフォルトインスタンス, 72
  - 論理アーキテクチャー内, 25
- Directory Server Preparation Tool, 78

## E

- evaluation\_domain、定義済み, 57
- evaluation\_host、定義済み, 57

## I

- Identity Server
  - Web Server で稼働, 76
  - インストール設定, 67
  - 管理コンソール, 76
  - デフォルトインスタンス, 76
  - ログイン, 76
  - 論理アーキテクチャー内, 25

## M

- Messaging Server
  - Directory Server との相互運用, 78
  - Messenger Express, 82, 100
  - インスタンスの作成, 81, 89, 94
  - 起動, 86, 107
  - シングルサインオン用の設定, 122
  - 設定, 81, 89, 94
  - 停止, 86, 107
  - プロキシ認証の設定, 138
  - 論理アーキテクチャー内, 25
- Messenger Express
  - インストール中, 82, 100

## P

### Portal Server

- インストール値, 68
- サンプルポータル, 68
- デフォルトインスタンス, 77, 78
- 論理アーキテクチャー内, 25

provisioning end users, 117

## S

Sun ONE LDAP スキーマ, 80

## U

user provisioning, 117

## W

### Web Server

- インストール値, 64
- 起動, 75
- 論理アーキテクチャー内, 25

## あ

### アーキテクチャー

- 配備, 28
  - 論理, 24
- アンインストーラ, 141

## い

### インストーラ

- 起動, 58
  - 共通サーバー設定, 63
  - 共有コンポーネントのアップグレード, 69
  - コンポーネントの選択, 59
  - サンプルポータルのインストール, 68
  - 設定モード, 62
  - デフォルト値, 63
  - ログファイル, 70
- インストール要件, 55

## え

- エンドユーザー, プロビジョニング, 109
- エンドユーザーのプロビジョニング, 109

## き

共通サーバー設定, 63

## さ

### サーバーコンソール

- 起動, 72, 87
- ディレクトリツリーの表示, 73, 87

## し

### システムコンポーネント

- Java Enterprise System 内, 20
  - 選択, 59
  - 配備アーキテクチャー内, 28
  - 論理アーキテクチャー内, 24
- シングルサインオン
- Calendar Server の設定, 124
  - Messaging Server の設定, 122
  - 定義された, 121, 122

## そ

組織、ディレクトリツリー内, 87

## て

### ディレクトリツリー

- サーバーコンソールでの表示, 73, 87

## は

### 配備アーキテクチャー

- 概要, 28
  - 実装, 29, 35, 47
- 配備シナリオ
- システム要件, 26

配備シナリオ (続き)  
論理アーキテクチャー, 24  
パスワード  
LDAP, 67  
デフォルト値, 63

ふ  
プロキシ認証  
Calendar Server の設定, 139  
Messaging Server の設定, 138  
ポータルチャネルの設定, 127  
メールチャネルの設定, 130

ほ  
ポータルデスクトップ、ログイン, 77, 78

ゆ  
ユースケース、リスト, 21

ろ  
ログファイル, 70  
論理アーキテクチャー, 24

